

## 様式第4 [基本計画標準様式]

- 基本計画の名称：第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：鹿児島県鹿児島市
- 計画期間：平成25年4月から平成30年3月まで（5年）

### 1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

#### [1] 鹿児島市の概要

鹿児島市は、県本土のほぼ中央部に位置し、鹿児島湾（錦江湾）をはさんで対岸にある桜島を含む人口約60万人の南九州の交流拠点都市である。

第二次世界大戦の戦火で市街地の約93%を焼失したが、戦後いち早く戦災復興土地区画整理事業により約1,044haの基盤整備を行い、今日の中心市街地の骨格が形成された。その後、経済の発展とともに市街地は次第に拡大し、昭和42年4月には隣接の谷山市と合併して人口38万人となり、昭和55年7月には人口50万人を突破した。

平成8年4月には中核市へ移行し、よりきめ細かな市民サービスの提供と個性豊かな魅力あるまちづくりを積極的に進め、南の拠点都市としてさらなる飛躍を目指すとともに、平成12年4月の地方分権一括法の施行により、地方分権の時代に対応した地域社会づくりの推進に全力を注いでいる。

平成16年11月には、周辺の吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、新たな一歩を踏み出し、平成22年の国勢調査時点の人口は605,846人であった。

平成23年度には、少子高齢化の進行や人口減少への移行、グローバル化の進展、環境問題の進行など歴史的な転換期を迎えていることを踏まえ、時代の潮流に的確に対応し、持続可能な発展を遂げていくため、第五次総合計画を策定した。同計画は、市民一人ひとりの鹿児島に寄せる愛情と未来へかける熱い想いや行動力を結集し、“心の豊かさ”“都市の豊かさ”“自然の豊かさ”の実現を基軸に、真に豊かさを実感できるまちを創造していこうとするものであり、目指す都市像を「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」と定め、その実現に向けて諸施策を推進している。



鹿児島市の位置

## [2] 中心市街地の概要

### 1. 中心市街地の概況

市街地は、標高100～300mの丘陵地帯に囲まれており、平野部が少ないことから地形的にコンパクトな都市構造となっている。幹線道路網は、市街地中心部から放射状に広がっている。都心部はこれまでの長い歴史の中で、各種商業機能、文化・アミューズメント機能、オフィス・官公庁等の中枢管理機能など様々な高次都市機能が集積する本市のまちの顔として、また南九州随一の繁華街、魅力ある地区として本市の発展に重要な役割を果たしてきた。

しかしながら、都市環境や交通事情の変化、周辺市町等の商業基盤の充実等により、都心部の地位が相対的に低下傾向にあったことから、平成11年5月に旧法に基づく中心市街地活性化基本計画を策定し、平成16年3月の九州新幹線部分開業を見据えて、鹿児島中央駅周辺の交通結節機能の強化による公共交通の乗り継ぎ利便性の向上や駅ビル建設、地元商店街による共同イベントなどの様々な事業に取り組み、交流人口の拡大によってにぎわいを創出した。

さらに、平成19年12月に国から認定を受けた第1期基本計画では、平成23年3月の九州新幹線全線開業を見据えて、「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」、「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」、「南九州随一の中心市街地の商店街活性化」を目標に掲げ、市街地再開発ビルや観光施設の整備などによる都市機能の集積、空きビルとなった商業施設の再生、商店街と一体となった多様なイベントの開催、特色ある公共交通機関の活用などに取り組み、歩行者通行量や入込観光客が増加するなどの成果が得られた。

### 2. 中心市街地に蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストック状況の分析とその有効活用を検討

#### (1) 歴史的・文化的資源

本市は、薩摩・大隅（鹿児島県）・日向（宮崎県）の三国を統治した島津氏の城下町として発展してきた。本市が南九州の中心となったのは、第6代氏久が東福寺城を居城にした時（1340年頃）に始まるといわれている。

以来500年余りにわたる島津氏の治世を礎として、本市は南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげた。

また、大陸や南西諸島に近いという立地条件から、琉球を中継地として早くから貿易が活発に行われ、大陸文化やヨーロッパ文化の門戸ともなった。16世紀の中頃、フランシスコ・ザビエルが上陸し、わが国に初めてキリスト教を伝えたことなどは、その代表的な例といえる。

近世に入ってから、19世紀の中頃、新しいヨーロッパの機械文明を取り入れた研究が進み、第28代斉彬のもと磯地区一帯で反射炉や溶鋳炉が造られ、わが国における近代工業の発祥の地となっている。

明治4年の廃藩置県とともに県庁所在地となり、同22年4月には市制を施行し、わが国で初めて市となった都市の一つである。

本市は、明治維新の原動力となり大いに活躍した西郷隆盛・大久保利通や歴代総理大臣を務めた黒田清隆・松方正義・山本権兵衛、軍人の西郷従道・大山巖など、教育界では森有礼（初代文部大臣）、



西郷隆盛銅像

実業界では五代友厚など、文化の面では黒田清輝・藤島武二（洋画家）、有島武郎（小説家）など、幾多の優れた人物を輩出している。

官公庁街に隣接する鹿児島城（鶴丸城）址は、現在、遺構として石垣や堀、西郷隆盛の私学校跡などが残されている。その石垣には西南戦争の際の弾痕が多数残っており、当時の激しい戦いを物語っている。城址には第七高等学校造士館、鹿児島大学医学部などが置かれたのち、現在は鹿児島県立歴史資料センター「黎明館」、鹿児島県立図書館、鹿児島市立美術館などの文化施設が立地し、市民・県民はもとより、多くの観光客が訪れ、鹿児島の歴史や文化を堪能している。また、付近には県内一の参拝客数を誇る照国神社があり、初詣や六月灯（鹿児島の夏の風物詩、県内各地の寺社等で開かれる夏祭り）では多くの人でにぎわう。

一方、市内の中心部を流れる甲突川の左岸地帯は、西郷隆盛、大久保利通らを筆頭とする維新の英傑を輩出した由緒ある地で、ここにある維新ふるさと館にも多くの観光客が訪れている。

これらの歴史的資源や文化施設は、市民にとってかけがえのないものであり、中心市街地の活性化を図る際にも最大限活用していくことが大切である。

## （２）景観資源

本市は、人口60万人の南九州の中核都市であり、雄大な桜島と波静かな錦江湾に代表される世界に誇れる自然景観や県庁所在地で日本一の源泉数を持つ豊富な温泉を有し、温暖な気候で、都市と自然とが共生する快適な環境の中にある。これらの資源は、市民に癒しと安らぎを与えるかけがえのない財産であると同時に、本市を訪れる人にとっても魅力的な観光資源となっている。

[その他の景観資源]

鹿児島市都市景観ガイドプランでは、甲突川とその河畔、城山展望台からの桜島への眺望、石造倉庫群、中央駅から錦江湾へ伸びるナポリ通り・パース通りなどを中心市街地の景観資源として位置づけている。

このガイドプランに基づいて、市電センターポール事業、みなと大通り公園整備事業、ロマンチックオブジェ事業、歴史と文化の道整備事業など、本市の個性や特色を生かした多彩な都市景観の形成に積極的に取り組んできた。

また、第1期基本計画においても市電軌道敷緑化整備事業や電線類の地中化を行うブルースカイ計画事業を進め、都市景観の向上を図るとともに、ファンタスティックイルミネーション推進事業や冬季光の回廊事業など、魅力的な夜の景観づくりも推進してきた。

さらに、景観法に基づき、平成20年6月に全市域を景観計画区域とした鹿児島市景観計画及び景観条例を施行し、城山展望台から桜島への眺望確保など、市民、事業者、行政が一体となって、良好な景観形成に向けたまちづくりに取り組んでいる。



桜島と新幹線



イルミネーション



市電軌道敷緑化

### (3) 社会資本や産業資源

公共公益施設は、市役所等の行政機関や、市立美術館、県立図書館、かごしま近代文学館・メルヘン館等の文化施設が中心市街地に集中して立地している。

このほか、平成12年に整備された勤労者交流センターやかごしま市民福祉プラザ、平成15年に整備されたかごしま県民交流センター、平成22年に整備された観光交流センターは、人、文化、情報等の拠点施設として、市民福祉の増進と交流人口の拡大に寄与している。

鹿児島中央駅地区では、平成22年以降、市街地再開発事業による商業・業務複合施設「アエールプラザ」、商業・共同住宅複合施設「アエールタワー」、民間開発による業務・ホテル・バスターミナル等の複合施設「鹿児島中央ターミナルビル」、鹿児島の食文化を提供する「かごつまふるさと屋台村」が開業した。いづろ・天文館地区では、平成20年に子育て支援施設「親子つどいの広場（なかまっち）」が開設されたほか、平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡に商業・交流施設「マルヤガーデンズ」や、シネマコンプレックス・商業施設等の複合施設「LAZO表参道（天文館シネマパラダイス）」が開業した。

公共交通は、鉄道・バス・市営電車（市電）・フェリーなどがあり、アクセス手段が充実している。

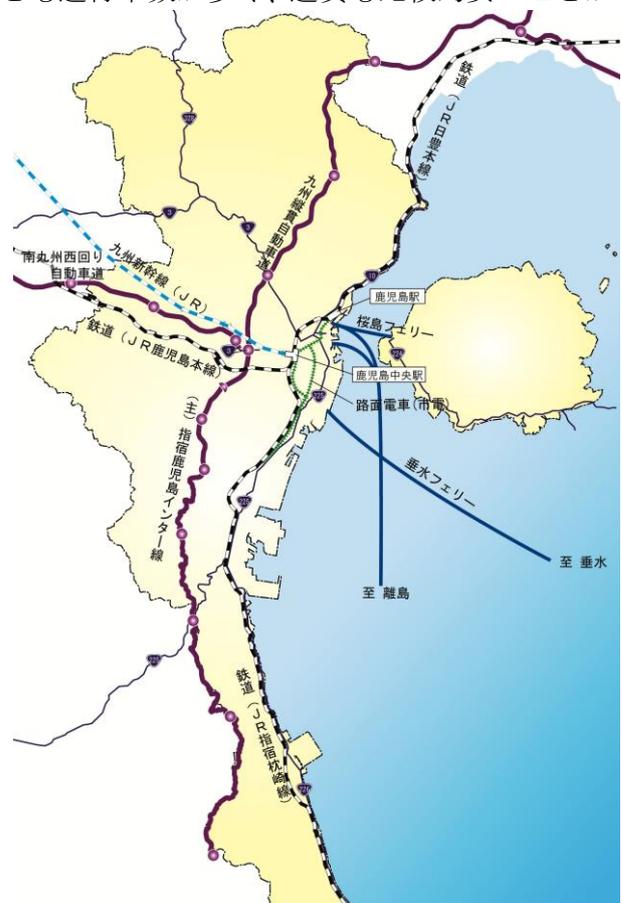
鉄道は、平成23年3月12日に九州新幹線が全線開業し、新大阪駅～鹿児島中央駅が最速3時間42分で結ばれたことにより、関西・中国方面から多くの観光客が訪れている。

鹿児島空港連絡バスや大阪・福岡・長崎・宮崎方面への都市間高速バス、県内各地に向けて運行されているバスは、いずれも起点が中心市街地に集中している。都市間高速バスは、福岡便が30分ごとに運行するなど、各方面とも運行本数が多く、運賃も比較的安いことから、新幹線と並んで広域交通手段として広く利用されている。鹿児島中央ターミナルビルには、バスターミナルが整備され、都市間高速バス利用の利便性が向上した。

市域内の路線バスも数多く運行され、その多くが中心市街地を起点・終点または経由地としている。特に電車通りの高見馬場～金生町はバス路線が集中している。

本市の観光資源の一つにもなっている市電は2系統で運行され、両路線ともに中心市街地に立地する鹿児島駅前を起点・終点とし、多くの停留場を設けている。

大型貨客船等が行き交う鹿児島港は、24時間運航で世界屈指の乗客数を誇る桜島フェリーや、世界遺産の屋久島や種子島とを結ぶ高速船のターミナルを有するほか、県内離島や沖縄への商業港としての拠点性があり、物流面においても生産地と消費地が近接しているといった優位な特性がある。



鹿児島市の公共交通網

### [3] 第1期基本計画の取組と総括

#### 1. 第1期基本計画の概要

(1) 計画期間：平成19年12月～平成25年3月

(2) 区域面積：368ha

#### (3) コンセプト

「海と陸を結ぶ 南の“歓・交”拠点都市の創造

～観光・商業・交流によるにぎわいのあるまちづくり～」

#### (4) 中心市街地の基本方針

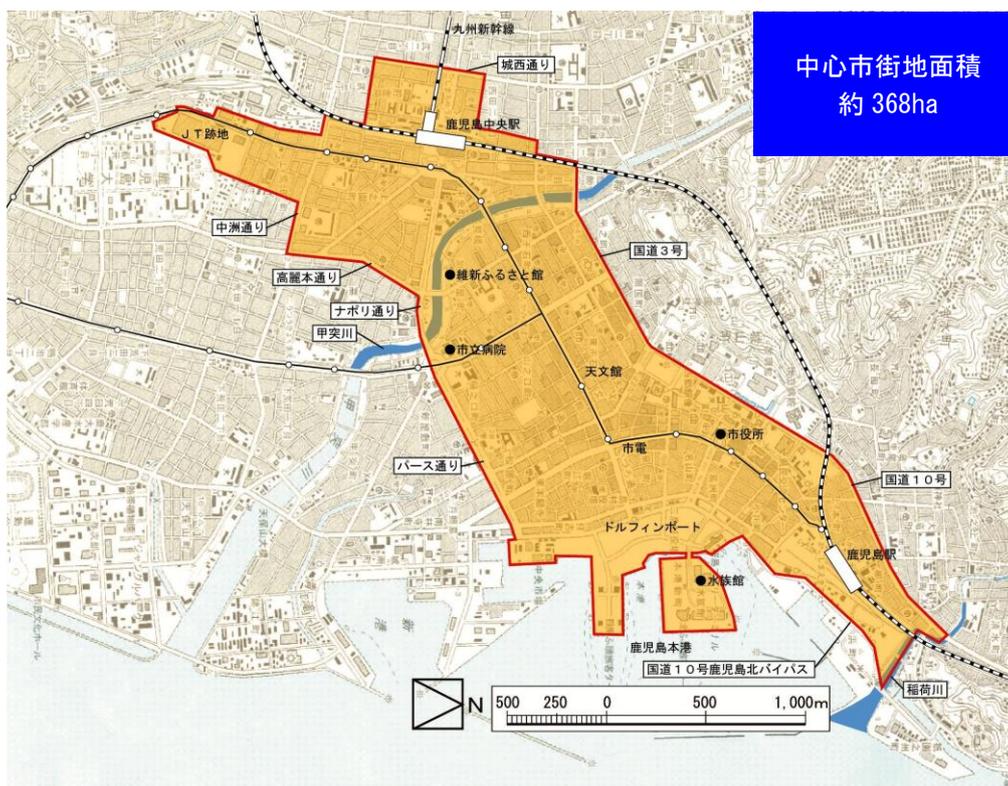
基本方針1：気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり

基本方針2：人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり

基本方針3：多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり

#### (5) 目標

基本的な方針	中心市街地の活性化の目標	目標指標	1期基準値	1期目標値
気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり	目標1 まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量	125,531人/日 (H18年)	150,000人/日 (H24年)
人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり	目標2 九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	6,801,000人 (H18年)	8,000,000人 (H24年)
多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり	目標3 南九州随一の中心市街地の商店街活性化	小売業年間商品販売額	209,421百万円 (H16年)	210,000百万円 (H24年)



## 2. 施策ごとの事業の実施状況と評価

### (1) 実施状況

■ 80事業の進捗状況内訳

(平成24年10月現在)

	事業数	着手事業	着手事業の内訳			未着手
			完了	実施中	未完了	
市街地の整備改善	18	18	9	2	7	0
都市福利施設の整備	10	10	8	0	2	0
街なか居住の推進	5(1)	5(1)	2(1)	3	0	0
商業の活性化	33(2)	32(2)	6(2)	24	2	1
公共交通の利便増進	14(2)	14(2)	8	3	3(2)	0
計	80(5)	79(5)	33(3)	32	14(2)	1

※カッコ内は、再掲する事業の数

第1期基本計画は、認定を受けた当初は63事業を計画事業として位置づけ、市街地の整備改善や都市福利施設の整備など5つの施策を推進した。その後、毎年度、事業の実施状況等についてフォローアップを行い、中心市街地のおかれている環境の変化に対応し、にぎわい創出や回遊性向上などを一層図るための17事業を追加し、計80事業を計画事業として位置づけ、目標達成に取り組んできた。

これらの事業のうち、(仮称)照国表参道ショッピングモール化事業を除く79事業は着手され、その多くは、地区における核施設として、また多くの来街者に楽しみを提供し、にぎわいを生み出すイベント等として機能し、所期の目的を達成しつつある。

一方、未着手事業である(仮称)照国表参道ショッピングモール化事業は、関係者の合意形成が遅れたことにより、計画通り実施することができなかった。

また、バスロケーションシステムのように、導入調査は実施したもののランニングコスト等の課題から本格導入に至らなかった事業や、(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業における山形屋増床のように、社会経済情勢の変化の影響を受けて、事業には着手したものの途中で中断し、延期された事業もあった。

総体としては、九州新幹線全線開業を見据えた第1期基本計画の各種プロジェクトの実施(着手率98.75%)により、市電軌道敷の緑化、市街地再開発、観光施設の整備など都市機能の集積が進み、官民一体となったソフト事業も活発化したことで、年間入込観光客数は着実に増加し、歩行者通行量は減少傾向にあったものが下げ止まり、平成24年の実績値は計画期間内で最も高くなるなど一定の効果が出ている。

一方、長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みや電子商取引などの通信販売の増加、中心市街地外への大型商業施設の立地等の影響により、域内の小売業年間商品販売額は低迷している。

施策ごとの実施状況等は次のとおりである。

### (2) 施策ごとの実施状況と評価

#### ①「市街地の整備改善」のための事業

九州新幹線の全線開業を見据えて、交通結節拠点を中心に土地の高度利用と都市機能の

集積を進めることによって、南九州の交流拠点都市として、さらに個性と魅力ある都市空間の創出を図った。また、少子高齢化の進行に対応して安全で快適な歩行環境や道路等のバリアフリー化事業を推進するとともに、近年における人口の都心回帰傾向を受けて、高齢者を含めすべての人々に安心して暮らせる住みよい市街地環境の整備を進めるため、以下の事業に取り組んだ。

区分	番号	事業名	実施時期 (年度)	進捗 状況	実施主体
市街地の 整備改善	1	中央町 22 番街区市街地再開発事業	H17～H21	完了	市街地再開発組合
	2	中央町 23 番街区市街地再開発事業	H17～H22	完了	市街地再開発組合
	3	中町自転車等駐車場（仮称）整備事業	H18～H19	完了	鹿児島市
	4	歴史ロード“維新ふるさとの道”（仮称）整備事業	H18～H21	完了	鹿児島市
	5	甲突川右岸緑地整備事業	H19～H22	完了	鹿児島市
	6	ファンタスティックイルミネーション推進事業	H18～H21	完了	鹿児島市
	7	市電軌道敷緑化整備事業	H18～H19 H23～H24	未完了	鹿児島市
	8	舗装新設・歩道整備事業	H18～H27	未完了	鹿児島市
	9	鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業	H18～H27	未完了	鹿児島市
	10	ブルースカイ計画事業	H19～H27	未完了	鹿児島市
	11	（仮称）清滝川通り整備事業	H19～H22	完了	鹿児島市
	68	天文館通 1 号線緑化整備事業	H23	完了	鹿児島市
	69	天文館公園再整備事業	H23～H25	未完了	鹿児島市
	14-2	JT 跡地緑地整備事業	H23～H26	未完了	鹿児島市
	70	冬季光の回廊事業	H22～	実施中	鹿児島市
	67	いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業	H21～H24	未完了	鹿児島市
74	鹿児島中央駅周辺一体的まちづくり推進事業	H23～H25	実施中	鹿児島市	
12	屋外広告物による景観まちづくり事業	H20～H22	完了	鹿児島市	

鹿児島中央駅地区において実施した中央町 22、23 番街区の市街地再開発事業では、老朽建築物が密集していた街区の高度利用と商業・住居機能等の強化が図られ、整備された再開発ビルは、地域の一番街商店街の核施設となっている。今後は、駅周辺に集う来街者の多くが一番街商店街に足を運ぶようになるための魅力的な商店街づくりが必要となってくる。

歩道のバリアフリー化や電線類の地中化等により、安全で快適な歩行空間が確保されるとともに、市電軌道敷緑化やファンタスティックイルミネーション等の景観整備を効果的に実施することで、回遊性や都市景観の魅力の向上を推進した結果、いづろ・天文館地区においては、減少傾向にあった歩行者通行量が下げ止まった。

上町・ウォーターフロント地区については、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業の実施を通して、まちづくりガイドラインが作成され、まちづくり団体が設立されるなど、住民主体による活動が活発化したが、具体的な整備事業の実施には至らなかった。同地区は、歴史、文化など鹿児島ならではの魅力を多数内包する地区であることから、これらの地域

資源を活用しつつ新幹線開業による入込観光客数増の効果を波及させていく取組が必要である。

## ②「都市福利施設の整備」のための事業

公共施設や業務施設、商業施設等の多様な都市機能がコンパクトに集積した中心市街地は、高齢者やファミリー層世帯を含め様々な世代に対する都心ライフの利便性、魅力を提供している。少子高齢社会、成熟社会を前提とした効率的で安心して暮らせる社会システム、都市環境の再構築や定住人口・交流人口の増加を図ることによって、都市の活力を維持増進するため、既存の都市福利施設を有効活用した以下の事業に取り組んだ。

区分	番号	事業名	実施時期 (年度)	進捗 状況	実施主体
都市 福利 施設 の 整備	13	鹿児島市立病院建設事業	H19～	未完了	鹿児島市
	14	JT跡地活用検討事業	H19～	完了	鹿児島市
	15	(仮称) いづろ・天文館にぎわい創出事業	H19～	完了	鹿児島市など
	15-2	いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業(いづろ・天文館地区)	H21～H24	完了	(株)天文館
	64	呉服町6番街区等整備事業	H21～H22	完了	(株)丸屋本社
	16	(仮称)親子つどいの広場施設整備事業	H18～H19	完了	鹿児島市
	17	かごしま水族館10周年記念事業	H18～H22	完了	鹿児島市
	18	みなと大通り別館整備事業	H19	完了	鹿児島市
	19	維新ふるさと館体感ホールリニューアル事業	H19～H20	完了	鹿児島市
	71	中央公民館整備事業	H23～H24	未完了	鹿児島市

いづろ・天文館地区においては、子育て支援施設「親子つどいの広場(なかまっち)」を整備し、当初の計画どおりの効果が得られているほか、閉店した三越鹿児島店跡に市民交流のためのコミュニティスペースを備えた商業施設・マルヤガーデンズを速やかに整備したことで、百貨店閉店の影響を最小限にとどめ、逆に、周辺の歩行者通行量の増加を生み出した。また、同地区に不足していた娯楽機能としてのシネマコンプレックスを託児施設とともに整備したL A Z O表参道(天文館シネマパラダイス)が平成24年5月にオープンした。開業間もない現在は、施設の周知等の課題があり来館者が伸び悩んでいることから、今後、周辺商店街と連携したソフト事業を付帯するなど施設の魅力を一層引き出す取組が必要となる。

さらに、九州新幹線全線開業を見据えてリニューアルした維新ふるさと館には、「市街地の整備改善」の中で関連事業として整備した歴史ロード“維新ふるさとの道”等との相乗効果や、平成20年に放映された大河ドラマ「篤姫」の効果もあって、多くの観光客等が訪れ、23年度の来館者数は過去最高となった。

そのほか、施設の老朽化が進む市立病院のJT跡地への移転計画を進めた。

## ③「街なか居住の推進」のための事業

中心市街地の居住人口の増加を図ることは、中心商業地の利用者の基礎人口を底上げし、

地域コミュニティ活動の促進や、商業・サービス業の振興、にぎわいの回復・創出、経済活力の向上に寄与するものである。このため、民間の活力を適切に活用し、市街地再開発事業等による魅力ある商業施設を兼ね備えた良好な市街地住宅を供給するとともに、町内会等による地域コミュニティ活動の支援と促進を図るため、以下の事業に取り組んだ。

区分	番号	事業名	実施時期 (年度)	進捗 状況	実施主体
街なか 居住の 推進	2	中央町23番街区市街地再開発事業(再掲)	H17～H22	完了	市街地再開発組合
	20	みんなで参加わがまちづくり支援事業	H18～H27	実施中	町内会
	21	安心安全パートナーシップ事業(防犯パトロール隊)	H17～	実施中	町内会
	22	「みんなの目」パトロール事業	H19～	実施中	町内会
	23	青色防犯灯犯罪抑止調査研究モデル事業	H19	完了	鹿児島市など
	24	中央町町内会公民館整備事業	H22	完了	町内会

本市中心市街地における居住人口は、民間マンションの供給が活発化したこと等により、平成12年から18年までの間で約8.4%増加した。その後、第1期基本計画に基づく市街地再開発事業による住宅整備や、町内会活動や防犯パトロールなどの地域コミュニティづくりの取組等により、24年3月までに18年比でさらに9.2%増加した。居住人口の増は、いづろ・天文館地区の歩行者通行量を増加させた一つの要因であると考えられることから、引き続き街なか居住を推進し、コンパクトなまちづくりに取り組んでいく必要がある。

#### ④「商業の活性化」のための事業

買い物を目的とした来街者以外のニーズにも対応しながら、新たな出会いと交流の機会を創出するとともに、魅力ある商業空間づくりを進め、にぎわいと活力あるまちを目指すこととし、その基盤を支える個別の店舗や商店街等が行う多様な消費者ニーズに対応し魅力向上に向けたソフト・ハード事業への支援、空き店舗対策、新たな交流と集客を生み出す各種イベントの開催等の取組を引き続き積極的に支援するため、以下の事業に取り組んだ。

区分	番号	事業名	実施時期 (年度)	進捗 状況	実施主体
商業 の 活 性 化	25	いづろ商店街ショッピングモール化事業	H19～H20	完了	商店街振興組合
	26	(仮称)照国表参道商店街ショッピングモール化事業	H23～H24	未着手	商店街振興組合
	27	中央町22番街区テナントミックス事業	H21～	実施中	(株)チェスト
	15-3	東千石町19番街区テナントミックス事業	H23～	実施中	(株)天文館
	28	(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)	H20～H23	未完了	(株)山形屋
	1	中央町22番街区市街地再開発事業(再掲)	H17～H21	完了	市街地再開発組合
	2	中央町23番街区市街地再開発事業(再掲)	H17～H22	完了	市街地再開発組合
	29	アジア青少年芸術祭開催事業	H18～	実施中	実行委員会

商業の活性化	30	商店街ファンタスティックイルミネーション事業	H18～H22	完了	鹿児島市
	31	街なか空き店舗活用事業	H19～H27	実施中	鹿児島市
	32	新規創業者等育成支援事業	H13～	実施中	鹿児島市
	33	鹿児島ぶらりまち歩き推進事業	H18～	実施中	鹿児島市
	65	“美味のまち鹿児島” 魅力づくり事業	H21～H27	実施中	“美味のまち鹿児島” づくり協議会
	75	街なかサービス推進事業	H24～H27	実施中	鹿児島市
	34	かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会開催事業	H12～	実施中	実行委員会
	35	おはら祭推進事業	S24～	実施中	振興会
	36	頑張る商店街支援事業	H19～H27	実施中	商店街等
	37	鹿児島カップ火山めぐりヨットレース開催事業	S63～	実施中	実行委員会
	38	大河ドラマ「篤姫」対策推進事業	H19～H20	完了	実行委員会
	39	鹿児島大学との連携による商店街活性化策検討事業	H19	完了	中心市街地活性化協議会
	66	中心市街地にぎわい支援事業	H21～H23	完了	鹿児島市・(株)まちづくり鹿児島
	40	都市型産業振興事業	H11～	実施中	鹿児島市
	41	かごしま春祭開催事業	H19～	実施中	振興会
	42	レンタサイクル&タウンモビリティ事業	H24	実施中	商店街
	43	朝市・フリーマーケット開催事業	H20～H24	実施中	商店街
	44	商店街ファサード整備事業	H21～H24	未完了	商店街振興組合
	45	通りとオープンスペースを活用したソフト事業	H21～H24	実施中	商店街振興組合等
	46	商店街一店逸品運動推進事業	H15～	実施中	商店街
	47	バリアフリー天文館開催事業	H11～	実施中	商店街振興組合
	48	にぎわい商店街づくり支援事業	H19～	実施中	商店街
	49	おぎおんさあ（祇園祭）開催事業	S25～	実施中	祇園奉賛会
	50	“We Love 天文館” 活性化事業	H19～	実施中	We Love 天文館協議会
	51	“みなとゆめ市場” 開催事業	H19	完了	NPO 法人
	52	遊覧船運航事業	S53～	実施中	鹿児島市
76	中央町6番街区屋台村整備・運営事業	H23～	実施中	NPO 法人・南国殖産(株)	

いづろ・天文館地区におけるにぎわい再生の主たる事業として計画していた（仮称）いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む。）が、厳しい経済情勢の中で未完成の事業となっており、その成果を計画終了までの間に得ることができない。百貨店業界は、全国的に売り上げが減少していることを考慮すると、増床計画を早期に再開することは困難な状況である。このため、山形屋においては、事業用地に駐車場と広場を暫定整備し、年間を通じて各種催しを行うことで、地域のにぎわい創出を図っている。

また、いづろ商店街におけるアーケード整備やWe Love 天文館協議会等による多彩なイベントや、鹿児島ぶらりまち歩き推進事業などの都市型観光振興のための事業実施等、ハード・ソフト両面での総合的なまちづくりの推進を図ってきた結果、減少傾向であ

った歩行者通行量が下げ止まり、平成24年の実績値は計画期間内で最も高くなるとともに、入込観光客数も過去最高を記録した。

しかし、中心市街地における小売業年間商品販売額は低迷している。増加した入込観光客が、鹿児島中央駅地区からいづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区へと移動する動機づくり、まちを各面から満喫できる魅力づくりへの一層の取組が必要である。特に、いづろ・天文館地区は、小売業年間商品販売額が低迷してはいるが、依然として集客力を有する繁華街であることから、その強みを生かして商業の活性化へとつなげる方策を検討する必要がある。

未着手事業である照国表参道ショッピングモール化事業については、関係者による合意形成など、第2期基本計画においても引き続き事業実施に向けた取組を行い、早期実現を図る必要がある。

### ⑤「公共交通機関の利便増進」のための事業

中心市街地に来街しやすい交通環境の整備を進めるため、利用者の利便性を考慮した公共交通機関の利用環境の向上を図るとともに、市営電車の軌道敷緑化を実施して鹿児島らしい都市景観の創出とヒートアイランド現象の緩和に努めるなど、人と環境にやさしい中心市街地づくりを推進した。また、バスや市営電車などの公共交通機関への利用転換を促すエコ通勤の社会実験を通じて、交通渋滞の緩和や公共交通の活性化を図るなど、市民、交通事業者、商業者等が一体となって、過度に自家用車に依存しない中心市街地づくりを進めるため、以下の事業に取り組んだ。

区分	番号	事業名	実施時期 (年度)	進捗 状況	実施主体
公共交通機関の利便増進	53	市電軌道改良事業	H18～H19 H23～H24	未完了	鹿児島市
	54	交通利便性の向上事業	H19～H20	完了	鹿児島市
	7	市電軌道敷緑化整備事業（再掲）	H18～H19 H23～H24	未完了	鹿児島市
	55	新船建造事業	H19～H22	完了	鹿児島市
	56	市電停留場上屋整備事業	H19～H20	完了	鹿児島市
	57	バスロケーションシステム導入調査事業	H19～H20	完了	鹿児島市
	67	いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業（再掲）	H21～H24	未完了	鹿児島市、(株)まちづくり鹿児島
	58	バス車両更新事業	H17～	実施中	鹿児島市
	59	連接式超低床電車購入事業	H18～H19	完了	鹿児島市
	60	桜島フェリーバリアフリー化事業	H18～H19	完了	鹿児島市
	61	交通局電車施設整備事業	H19～	未完了	鹿児島市
	77	観光レトロ電車製作事業	H23～H24	未完了	鹿児島市
	62	カゴシマシティビュー運行事業	H6～	実施中	鹿児島市
	63	鹿児島都市圏における旅客流動の公共交通への誘導対策（エコ通勤の社会実験）	H19	完了	エコ通勤推進会議
	72	中央町11番街区再開発事業	H22～H23	完了	南国中央町ビル(株)、(株)鹿児島銀行ほか
73	よりみちクルーズ船運航事業	H22～	実施中	鹿児島市	

本市の陸の玄関である鹿児島中央駅地区に、福岡市や大阪市などと高速で結ぶ都市間高

速バスのターミナルや、商業・業務・宿泊施設を備えた再開発ビルを整備することにより、アクセシビリティ、回遊性、集客力の向上が図られた。

また、市営電車の軌道敷緑化を実施し、鹿児島らしい都市景観の創出と、人と環境にやさしい中心市街地づくりを推進することができた。

さらに、環境への負荷を低減できる新船・桜島丸を建造し、定期航路のほかに納涼観光船としても活用したほか、錦江湾や桜島の魅力を海上から楽しめるよりみちクルーズ船運航事業は、年間18,000人を超える利用者を集めるなど成果があった。

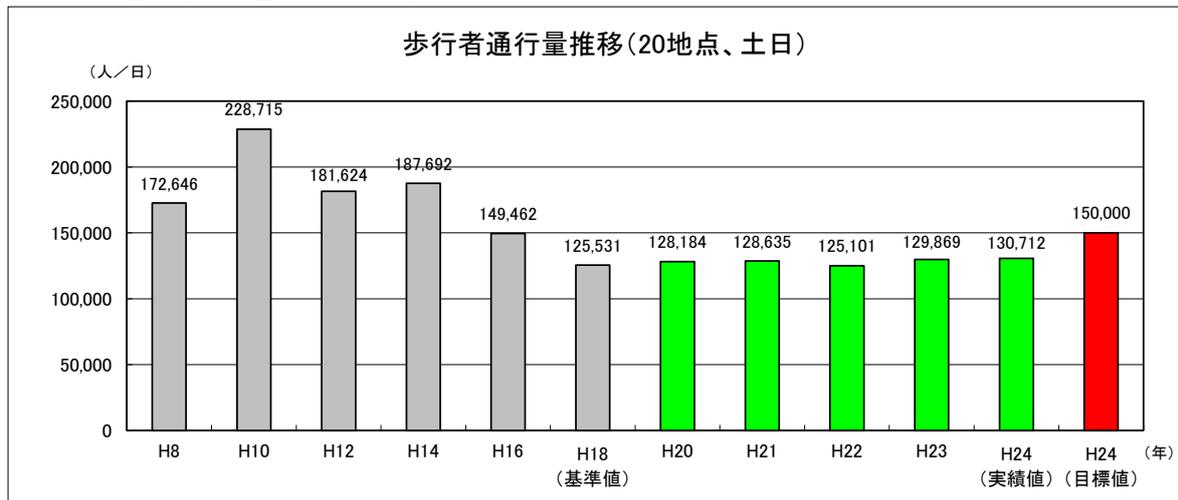
今後、新幹線効果を持続的に発展させていくためには、鹿児島中央駅を玄関として本市を訪れる多くの観光客が、いづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区へと回遊しやすい交通環境の一層の整備を進める必要がある。

### 3. 数値目標の達成状況・分析

#### (1) 目標1「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」

目標指標	基準値 (H18年)	実績値 (H24年)	目標値 (H24年)
歩行者通行量	125,531人	130,712人	150,000人

#### 1) 数値目標の達成状況、評価、分析



目標1は、基本方針1「気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり」のもとに「街なかのにぎわい創出と回遊性の向上」を掲げ、指標として、いづろ・天文館地区の20地点における歩行者通行量(土日平均)を設定した。歩行者通行量は、平成10年以降、減少傾向にあったものが下げ止まり、平成24年の実績値は計画期間内で最も高くなっている。第1期基本計画に基づく取組により一定の成果があったものの、15万人/日という目標は達成できなかった。

目標が達成できなかった要因として「(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)」が厳しい経済情勢のもとで未完成となっていることがあげられる。計画当初、増床効果により約41,000人/日の増を見込んでいたが、この効果が得られていない。一方、山形屋では、事業用地に広場を暫定的に整備し、様々なイベント等を実施した結果、年間約3万人が訪れるなど、増床が延期されるなかでのにぎわいづくりに努めている。

親子つどいの広場施設整備事業については、計画通り平成20年4月に「なかまっち」が供用開始し、計画の見込み利用者数100人/日を超える103人/日が利用するなど、概ね当初の想定どおりの効果を得られた。

また、本市では、目標の達成に向け毎年度フォローアップを実施し、三越閉店後の空きビルに複合商業施設マルヤガーデンズを整備する事業や、中心市街地にぎわい支援事業などのソフト事業を新規事業として追加実施した結果、九州新幹線全線開業効果もあり、平成24年は、計画期間内で最高の130,712人/日にまで歩行者通行量が増加した。

歩行者通行量を調査地点別に分析すると、基準年である平成18年に比べて平成24年の値は、平成24年5月に開業したLAZO表参道周辺2地点で2倍を超えており、同施設の整備事業の効果が顕著に表れている。いづろ商店街の2地点においても増加しており、アーケード整備の効果が表れている。

一方、平成18年に比べて空き店舗が増えているぴらもーるやはいから通りは、歩行者通

行量が減少しており、歩行者通行量の減少により空き店舗が増加し、さらに歩行者通行量が減少するという傾向にある。

今後は、人口が減少する中、新幹線効果を持続・拡大させ、中心市街地全体への波及を図り、歩行者通行量の増加傾向を持続させる必要がある。

## 2) 調査地点図、歩行者通行量の地点別の推移



地点	H8年	H10年	H12年	H14年	H16年	H18年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
1	17,073	25,852	20,416	21,296	16,317	12,724	13,717	11,547	12,766	13,866	14,434
2	14,231	23,520	18,409	18,755	15,511	11,747	8,908	13,864	9,167	12,241	12,049
3	8,476	9,621	8,947	7,705	5,507	6,292	6,231	6,324	6,590	7,239	7,042
4	6,461	7,063	6,598	6,451	5,782	5,403	4,846	4,903	5,305	5,554	5,502
5	18,754	23,746	18,564	21,718	14,320	12,743	12,884	14,167	14,140	12,567	12,102
6	10,702	13,627	10,004	11,217	8,559	8,030	7,581	6,923	6,617	6,220	6,810
7	12,387	16,019	12,241	12,588	10,078	8,831	8,629	9,003	6,987	7,678	7,598
8	13,474	15,237	12,719	12,607	9,021	8,179	8,835	7,813	7,868	7,614	7,613
9	7,351	9,096	6,983	8,138	6,247	5,461	5,883	6,319	5,061	4,846	5,873
10	8,072	10,253	7,373	8,821	6,765	6,069	7,199	6,508	5,927	5,134	4,964
11	3,196	5,156	3,343	3,123	2,573	2,019	2,338	2,371	2,586	2,180	4,459
12	2,518	4,521	2,141	2,259	1,697	1,388	1,422	1,572	1,457	1,314	2,990
13	4,088	5,545	5,118	5,527	4,452	4,393	4,363	4,351	4,080	4,138	4,560
14	4,103	5,118	3,492	3,562	3,492	2,712	3,402	2,653	2,781	2,381	2,516
15	7,600	9,977	9,396	8,444	8,403	5,800	4,187	4,699	6,244	6,362	5,264
16	4,406	5,497	4,122	5,493	5,360	3,129	4,164	3,685	3,287	7,006	6,359
17	6,272	8,897	6,349	7,082	5,196	5,093	5,176	4,918	5,301	5,058	4,817
18	9,876	12,364	10,411	9,703	7,731	6,519	5,694	5,330	6,328	6,045	4,431
19	10,621	14,057	11,161	9,704	9,437	6,203	9,821	8,835	9,766	9,491	8,470
20	2,990	3,554	3,843	3,504	3,019	2,799	2,909	2,853	2,848	2,940	2,865
合計	172,646	228,715	181,624	187,692	149,462	125,531	128,184	128,635	125,101	129,869	130,712

(基準値)

(実績値)

凡例 H18年比1,000人増：



H18年比1,000人減：



### 3) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

#### ①(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)

実施時期	平成 20 年度～【未完了】
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000 m <sup>2</sup> ）、イベント広場及びプロムナードの整備。
事業成果	<p>事業の一部は着手したものの、現在の厳しい経済情勢では、急速な個人消費の回復は望めないため、増床については実施を延期している。</p> <p>このため、計画当初に見込んでいた効果、歩行者通行量については 41,258 人/日増（来店者増による 26,071 人/日の増加と、増えた山形屋来店者が他の場所へ回遊する効果の 15,187 人/日の増加）、中心市街地への年間入込観光客数については 1,118,785 人の増、小売業年間商品販売額については 84 億円の増（来店者増による 70 億円の増加及び周辺商店街への波及効果としての 14 億円の増加）が得られていない。</p> <p>一方、山形屋では、事業予定地にイベント広場を暫定整備（平成 22 年 11 月）し、様々な催しを実施した結果、年間約 3 万人が訪れ、歩行者通行量としては 169 人/日増程度（※）、また入込観光客についても一定の効果があったと推計される。</p> <p>※ 第 1 期基本計画の推計法をもとに 1 人が 2.06 か所の調査地点を通過すると見込む。</p>

#### ②(仮称)親子つどいの広場施設整備事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	子育て中の親とその子どもが気軽に集い、育児相談、子育てに関連する情報交換等を行い、相互に交流できる子育て支援施設の整備。
事業成果	<p>親子つどいの広場については、計画の見込み利用者数 100 人/日を超える 103 人/日（開業後の平均）が利用するなど、概ね当初の計画通りの効果（220 人/日）が得られている。</p> <p>※ 親子つどいの広場に係る歩行者通行量は、1 人が 2.14 か所の調査地点を通過するとした第 1 期基本計画に基づいて効果を換算</p>

#### ③大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進等

- ・大河ドラマ「篤姫」対策推進事業（H19 年度～H20 年度）
- ・維新ふるさと館体感ホールリニューアル事業（H19 年度～H20 年度）
- ・歴史ロード“維新ふるさとの道”（仮称）整備事業（H18 年度～H21 年度）
- ・鹿児島ぶらりまち歩き推進事業（H18 年度～）
- ・かごしま水族館 10 周年記念事業（H18 年度～H22 年度）
- ・甲突川右岸緑地整備事業（H19 年度～H22 年度）

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	<p>大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営（平成 20 年 1 月～平成 21 年 3 月）するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」では、「篤姫」の放映効果を持続させるため、「篤姫館」の一部を移設展示するなどのリニューアルを行った。</p> <p>また、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”を整備したほか、平成 18 年に作成したまち歩きコース集をもとにボランティアガイドによるまち歩きを実施（平成 19 年度～）するなど、各種観光施策を展開している。</p> <p>多くの観光客が利用するかごしま水族館では、開館 10 周年を記念してアクアギャラリー等の改修を行ったほか、甲突川右岸に観光交流センターを整備した。</p>

事業成果	<p>「篤姫館」には、計画の3倍以上となる667,535人が入館した。また、平成23年の「維新ふるさと館」入館者数は、平成18年比61,207人・45.7%増の195,081人となった。ボランティアガイドによるまち歩きには3,570人、「維新ふるさとの道」などの観光地ガイド(6地点)にも80,182人が参加するなど、歩行者通行量と年間入込観光客数を押し上げる効果があった。</p> <p>かごしま水族館の平成23年度の入館者数は687,810人で、平成18年度(666,346人)に比べ21,464人・3.2%増、観光交流センターには、平成23年度に36,188人が訪れた。</p>
------	--

#### ④ LAZO表参道(天文館シネマパラダイス)の整備 [追加]

- ・(仮称) いづろ・天文館にぎわい創出事業 (H19年度～)
- ・いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業 (H21年度～H24年度) [追加]
- ・東千石町19番街区テナントミックス事業 (H23年度～) [追加]

実施時期	平成19年度～平成24年度【完了】
事業概要	老舗百貨店(山形屋)の増床計画に伴う敷地整序型土地区画整理事業により市が換地取得した土地等に文化商業複合施設(多目的ホール兼シネマコンプレックス、商業施設等)を整備した。
事業成果	<p>平成22年度は事業計画の見直しを行い、平成23年7月に建設工事着手、平成24年5月開業。多目的ホール兼シネマコンプレックスは、7スクリーン820席で年間27万人の入館者を見込む。その他、テナントミックス事業により、飲食・物販等の店舗を配置するとともに、託児施設も整備した。</p> <p>映画館の開業後の利用者数は、当初計画を下回るものの、施設の認知度が徐々に高まりつつあり、LAZO表参道周辺の歩行者通行量は3,407人/日(平成18年)から7,449人/日(平成24年)へと4,042人/日増加した。</p> <p>LAZO表参道に出店した各店舗は小売業年間商品販売額を公表していないことから、具体的な販売額は把握できないが、当施設が属する商店街では施設の開業を機に2割程度あった1階部分の空き店舗がなくなるなど商店街活性化へも貢献している。</p>

#### ⑤ 呉服町6番街区等整備事業 [追加]

実施時期	平成22年度【完了】
事業概要	平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡を取得・改修して、商業施設等(商業施設、コミュニティ施設、自走式立体駐車場)を整備した。
事業成果	<p>平成22年4月に「マルヤガーデンズ」として開業した。目標の年間来店者数350万人は達成、年間売上高70億円は若干下回る。</p> <p>本施設の特徴である各階に配置されたコミュニティスペースがNPOをはじめ地域住民による各種イベントに利用され(年間約500回)、来店客数は三越鹿児島店当時の約300万人(平成20年度)から50万人程増加し、歩行者通行量は7,003人/日(平成20年)から7,431人/日(平成24年)へと428人/日増加した。</p> <p>一方、小売業年間商品販売額は、目標に掲げた約70億円を若干下回り、閉店した従前の商業施設である三越鹿児島店当時の約100億円には及ばない。</p>

#### ⑥ 安全で快適な歩行空間の整備

- ・舗装新設・歩道整備事業 (H18年度～H27年度)
- ・ブルースカイ計画事業 (H19年度～H27年度)
- ・(仮称) 清滝川通り整備事業 (H19年度～H22年度)
- ・いづろ・天文館地区回遊空間づくり推進事業 (H21年度～H24年度) [追加]
- ・天文館通1号線緑化整備事業 (H23年度) [追加]

実施時期	平成 18 年度～平成 27 年度【未完了】
事業概要	<p>段差解消、勾配緩和など歩道のバリアフリー化や電線類の地中化を行うとともに、清滝川通りにおいて廃止した路上駐車場部分に遊歩道を整備し、安全で快適な歩行空間を整備した。</p> <p>また、中央公園と天文館公園を結ぶ歩行軸を中心とした回遊空間づくりとして、オープンカフェ等の社会実験を実施したほか、天文館通 1 号線（天文館 1 丁目商店街）において、路面の一部芝生化等の緑化整備と車両の一方通行化を行った。</p>
事業成果	<p>バリアフリー化、電線類の地中化については、順次実施しており、完了した区間では高齢者や車いす利用者等を含む歩行者の安全確保に寄与している。完了した清滝川通りの整備については、周辺住民等から「芝生がきれいで景観がよくなった」、「歩行者数が以前より増えた」との評価を得ている。</p> <p>平成 22 年度に実施した社会実験では、歩行者通行量が 10%増加するなど一定の効果があり、今後は施策の継続的な実施に向けた組織のあり方や広報活動のあり方について検討する必要がある。</p> <p>天文館通 1 号線の路面緑化は、平成 24 年 3 月に完了し、供用されたが、車や人の往来で踏まれ、大部分が一旦枯れたことから芝を張り替え、現在、養生等を行っているところであり、事業効果は現時点で測定できなかった。</p>

### ⑦魅力ある夜間景観の創造

- ・ファンタスティックイルミネーション推進事業（H18 年度～H21 年度）
- ・商店街ファンタスティックイルミネーション事業（H18 年度～H22 年度）
- ・市電軌道敷緑化整備事業（H18 年度～H20 年度、H23 年度～24 年度）
- ・冬季光の回廊事業（H22 年度～）[追加]

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	<p>公共施設のライトアップや商店街等によるイルミネーションの設置を官民一体となって実施した。</p> <p>また、宿泊観光客数の落ち込む冬季（12 月、1 月）における滞在型観光の推進や夜の回遊性向上を図るため、いづろ・天文館地区とウォータフロント地区を結ぶ通り等にイルミネーションを設置し、「光の回廊」を整備した。</p>
事業成果	<p>夜の景観や安全性が向上し、「イルミネーションがきれい」など、市民、観光客から好評を得ている。</p> <p>冬季光の回廊事業は、平成 23 年度は 12 月 1 日から 1 月 31 日に実施し、事業実施区間を周遊するバス「カゴシマシティビュー」夜景コースの 12、1 月の乗客者数が 2,269 人（実施前の平成 21 年比 23.2%増）となり、回遊性の向上や観光振興について一定の効果が表れている。</p>

### ⑧天文館ショッピングモール化の推進

- ・いづろ商店街ショッピングモール化事業（H19 年度～H20 年度）
- ・（仮称）照国表参道商店街ショッピングモール化事業（H23 年度～）
- ・街なか空き店舗活用事業（H18 年度～H27 年度）
- ・商店街一店逸品運動推進事業（H15 年度～）
- ・頑張る商店街支援事業（H19 年度～H27 年度）
- ・にぎわい商店街づくり支援事業（H19 年度～）
- ・中心市街地にぎわい支援事業（H21 年度～H23 年度）[追加]
- ・街なかサービス推進事業（H24 年度～H27 年度）[追加]

実施時期	平成 15 年度～【実施中】
事業概要	<p>いづろ・天文館地区は、12 の商店街で総延長 3 km を越えるアーケードが整備されており、商業集積と合わせて巨大なショッピングモールを形成している。このうち、いづろ商店街と照国表参道商店街において、アーケードを整備するほか、商店街の取組への支援や空き店舗対策など各種商店街活性化施策を実施した。</p>

	<p>また、来街者への情報発信の拠点となる天まちサロンを運営し、イベントや観光情報の提供、ベビーカーの無料貸し出し、ミニチャレンジショップ等を実施した。</p>
事業成果	<p>いづろ商店街では、歩行者通行量が11,695人/日(平成18年)から12,544人/日(平成24年)へと7.3%増加したほか、通りに面した1階部分の空き店舗がなくなる(平成23年度)などアーケード整備の効果が表れている。</p> <p>一方、照国表参道商店街では、地権者の合意形成に時間がかかり事業が未着手の状態である。</p> <p>商店街一店逸品運動推進事業とにぎわい商店街づくり支援事業は、実施商店街がそれぞれ1件にとどまり、十分な効果が表れていない。</p> <p>中心市街地の空き店舗率は、郊外型大型商業施設が相次いで進出した平成19年度に8.4%から12.1%に増加したものの、空き店舗対策により延べ16件の新規出店(平成19年度～23年度)があり、10.2%と減少傾向にある。</p> <p>天まちサロンの来館者数は、22,157人(平成22年度)、33,304人(平成23年度)と年々増加し、来街者の利便性増進に一定の効果があつた。平成24年度以降は、街なかサービス推進事業として、場所を移転し、特産品のアンテナショップ等の機能を付加して取り組む。</p> <p>これらの事業の実施により、中心市街地の歩行者通行量は増加し、にぎわいの創出という面において一定の成果があつた。今後は、魅力的な商品の入荷や来店しやすい店づくり、効果的な広告、そして商店街が一体となりショッピングモールとして機能する商店街づくりなど、小売業年間商品販売額増に向けたさらなる工夫が必要である。</p>

### ⑨天文館地区でのイベント事業

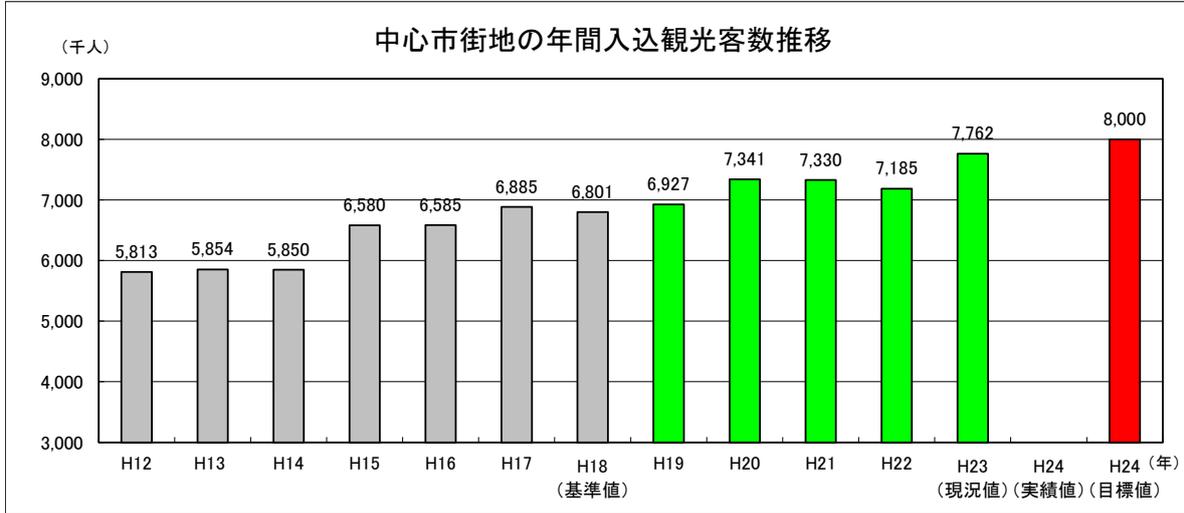
- ・“We Love 天文館”活性化事業(H19年度～)
- ・アジア青少年芸術祭開催事業(H18年度～)
- ・おはら祭推進事業(S24年度～)
- ・かごしま春祭開催事業(H19年度～)
- ・バリアフリー天文館開催事業(H11年度～)
- ・おぎおんさあ(祇園祭)開催事業(S25年度～)
- ・“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業(H21年度～H27年度)[追加]

実施時期	昭和24年度～【実施中】
事業概要	<p>天文館地区の商店街、百貨店、町内会など多様な主体から構成されるWe Love 天文館協議会は、「市電ワンコインの日」や「天文館こどもフェスティバル」など通年で様々なイベントを実施した。</p> <p>鹿児島の季節を代表する祭りであるかごしま春祭(春)、おぎおんさあ(夏)、おはら祭(秋)を実施したほか、平成21年度から新たに鹿児島の「食」をテーマに魅力を発信する“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業を実施した。</p>
事業成果	<p>平成23年度は、天文館こどもフェスティバルに目標を上回る26,000人が来場し、市電ワンコインの日では、2日間で4,199人の利用者が天文館を訪れた。</p> <p>中心市街地で開催された、おはら祭(約25万人)、かごしま春祭り(16万人)、おぎおんさあには多くの観客が訪れ、“美味のまち鹿児島”「薩摩美味維新」では、延べ出店数(47店舗)、スタンプラリー参加店数(226店舗)、参加者数(21,500人)と多くの飲食店が協働し、食によるおもてなしを実施した。</p> <p>これらの各種イベントが定着し、歩行者通行量の押し上げに貢献したと考えられる。</p>

(2) 目標2「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」

目標指標	基準値 (H18年)	現況値 (H23年)	目標値 (H24年)
中心市街地の年間入込観光客数	6,801,000人	7,762,000人	8,000,000人

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



目標2は、基本的方針2「人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり」のもとに「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」を掲げ、指標として、中心市街地の年間入込観光客数を設定した。中心市街地の年間入込観光客数は、九州新幹線全線開業を見据えた取組等の効果によって大幅に増加し、平成23年には過去最高の776万2千人を記録したが、平成24年の状況を勘案すると、目標とする800万人は難しい見込みである。

入込観光客が増えた要因として、平成20年に放映された大河ドラマ「篤姫」による効果を生かすために取り組んだ大河ドラマ「篤姫」対策推進事業等が挙げられ、20年度の入込観光客数は対前年度で40万人以上増加した。さらに、放映終了後にリニューアルオープンした維新ふるさと館体感ホールや歴史ロード“維新ふるさとの道”等の効果によって反動による減少も抑制できた。

また、計画期間中には、新型インフルエンザや口蹄疫が流行するなど外的環境の変化によるマイナス要因もあったが、毎年度のフォローアップに基づき、鹿児島県の「食」をテーマに、多くの飲食店参加のもと四季折々にイベント等を開催する「“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業」や、鹿児島県の海の魅力を楽しめる「よりみちクルーズ船運航事業（平成23年度乗船者数18,739人）」、南国・鹿児島県の冬の景観を彩る「冬季光の回廊事業」等の新幹線全線開業を見据えた事業を追加実施した結果、入込観光客数は着実に増加している。

平成24年には、鹿児島中央駅地区の交通結節機能を強化するバスターミナルと、商業・業務・宿泊施設を兼ね備えた鹿児島中央ターミナルビルや、観光客をもてなし、鹿児島県の美味しい食材による郷土料理等を提供する25店舗が出店した「かごつまふるさと屋台村」等がオープンし、観光面で貢献している。

一方、平成24年夏以降、新幹線の乗客数や県内の月別宿泊客数は前年を下回るなど新幹線全線開業効果が弱まりつつあることから、都市型観光の一層の推進や、観光客への案内・情報発信機能の充実、増加している外国人観光客への対応などが必要である。

## 2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

### ①大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進

- ・大河ドラマ「篤姫」対策推進事業（H19年度～H20年度）
- ・維新ふるさと館体感ホールリニューアル事業（H19年度～H20年度）
- ・歴史ロード“維新ふるさとの道”（仮称）整備事業（H18年度～H21年度）
- ・鹿児島ぶらりまち歩き推進事業（H18年度～）

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営（平成 20 年 1 月～平成 21 年 3 月）するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」では、「篤姫」の放映効果を持続させるため、「篤姫館」の一部を移設展示するなどのリニューアルを行った。 また、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”を整備したほか、平成 18 年に作成したまち歩きコース集をもとにボランティアガイドによるまち歩きを実施（平成 19 年度～）するなど、各種観光施策を展開している。
事業成果	「篤姫館」には、計画の 3 倍以上となる 667,535 人が入館した。また、平成 23 年の「維新ふるさと館」入館者数は、平成 18 年比 61,207 人・45.7% 増の 195,081 人となった。ボランティアガイドによるまち歩きには 3,570 人、“維新ふるさとの道”などの観光地ガイド（6 地点）にも 80,182 人が参加するなど、歩行者通行量と年間入込観光客数を押し上げる効果があった。

### ②かごしま水族館 10 周年記念事業

実施時期	平成 18 年度～平成 22 年度【完了】
事業概要	開館 10 周年を迎えた水族館について、イルカ水路の延長など参加・体験型を重視したシステム導入、施設の改修等を行った。
事業成果	平成 23 年度の入館者数は 687,810 人で、平成 18 年度（666,346 人）に比べて 3.2% 増となり、年間入込観光客数の増加に寄与した。

### ③（仮称）いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）

【再掲】 15 ページを参照

### ④甲突川右岸緑地整備事業

実施時期	平成 19 年度～平成 22 年度【完了】
事業概要	甲突川右岸緑地及びその周辺に、観光交流センターや観光バス駐車場を整備するとともに、観光客や市民が快適に散策できる回遊性のあるゾーンづくりを行い、観光の振興を図った。
事業成果	観光案内や団体客の休憩機能等を有する施設として整備した観光交流センターには、平成 23 年度に 36,188 人が訪れ、鹿児島中央駅からほど近く、明治維新ゆかりの偉人を多く輩出した地域という立地性も生かして、まち歩きの拠点として機能している。 また、中心市街地に不足していた観光バス駐車場が整備されたことで、入込観光客増にも貢献している。

### ⑤海を生かした観光の振興

- ・かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会開催事業（H12 年度～）
- ・鹿児島カップ火山めぐりヨットレース開催事業（S63 年度～）
- ・“みなとゆめ市場”開催事業（H17 年度～H19 年度）
- ・よりみちクルーズ船運航事業（H22 年度～）[追加]
- ・遊覧船運航事業（S53 年度～）
- ・新船建造事業（H19 年度～H22 年度）

実施時期	昭和 53 年度～【実施中】
事業概要	「霧島錦江湾国立公園」に含まれる活火山・桜島と波穏やかな錦江湾は、他に類例を見ない、雄大な自然を体感できる本市の観光資源である。 これらの資源を楽しめるウォーターフロントを活用し、南国かごしまの夏を楽しめる花火大会やヨットレース等のイベントを開催するとともに、桜島と錦江湾の魅力を経験するクルーズ船事業等を実施した。
事業成果	かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会は、かごしまの夏の風物詩として多くの観光客と市民に親しまれ、平成 23 年度は約 13 万人の来場者でにぎわった。また、中心市街地と桜島を結ぶ航路として、新たに錦江湾を南に下り 50 分をかけて洋上のひと時を楽しめるコースを開発したよりみちクルーズ船運航事業は、非日常的なゆったりした時間の使い方を提供し、遊覧船運航事業と合わせて 23 年度に 49,516 人の乗船者を集め、観光客の増に貢献した。これらの運航事業や定期航路に使用するために建造した新船は、同規模の既存船より燃料消費量が改善されるとともに、二酸化炭素排出量等の低減も図られ、環境への負担を軽減した。

### ⑥魅力ある夜間景観の創造

【再掲】 17 ページを参照

### ⑦“美味のまち鹿児島”魅力づくり事業 [追加]

実施時期	平成 21 年度～平成 27 年度【実施中】
事業概要	「薩摩美味維新 春の <sup>だいやめ</sup> 宴」等のイベントを開催し、「食」をテーマとする新たな魅力づくりを行うとともに、ガイドブックの作成や雑誌への広告掲載などにより県内外への効果的な情報発信を行った。
事業成果	23 年度の「薩摩美味維新」は四季折々に年 4 回開催し、鹿児島ならではの焼酎利き酒や振る舞い酒、ナンコ体験、桜島溶岩焼きなどを特設ステージの催しとともに開催し、会場出店した延べ 47 店舗に 21,500 人の参加者が訪れた。同時開催した「飲み歩き・食べ歩き」に参加した延べ 226 店舗にも多くの客が訪れ、観光客に鹿児島らしい夜の楽しみを提供した。さらに、イベント情報等をまとめたガイドブックを発行し、雑誌への広告掲載やインターネット等も活用し、鹿児島情報の発信を行い、入込観光客増に貢献した。

### ⑧中央町 1 1 番街区再開発事業 [追加]

実施時期	平成 22 年度～平成 23 年度【完了】
事業概要	九州新幹線の全線開業により県内外との接続性が一層充実した鹿児島中央駅地区において、バスターミナルや商業・業務・宿泊施設を備えたターミナルビルを整備した。
事業成果	バスターミナルビル、オフィス部分は平成 24 年 4 月に、ホテル、飲食店は同年 5 月にオープン。施設は、ランドマーク性を備え、バスターミナルは年間 110 万人の乗降客を、ホテルは同 7 万人の利用を見込んでいる。

### ⑨中央町 6 番街区屋台村整備・運営事業 [追加]

実施時期	平成 22 年度～平成 23 年度【完了】
事業概要	本市を訪れる多くの観光客への“おもてなし”として鹿児島の食文化を提供し、その魅力を発信する屋台村を整備した。
事業成果	平成 24 年 4 月に「かごつまふるさと屋台村」としてオープン。同年 9 月には年間目標としていた 30 万人の来客数を超え、見込みを大きく上回る賑わいを創出している。

### ⑩公共交通を活用した観光の振興

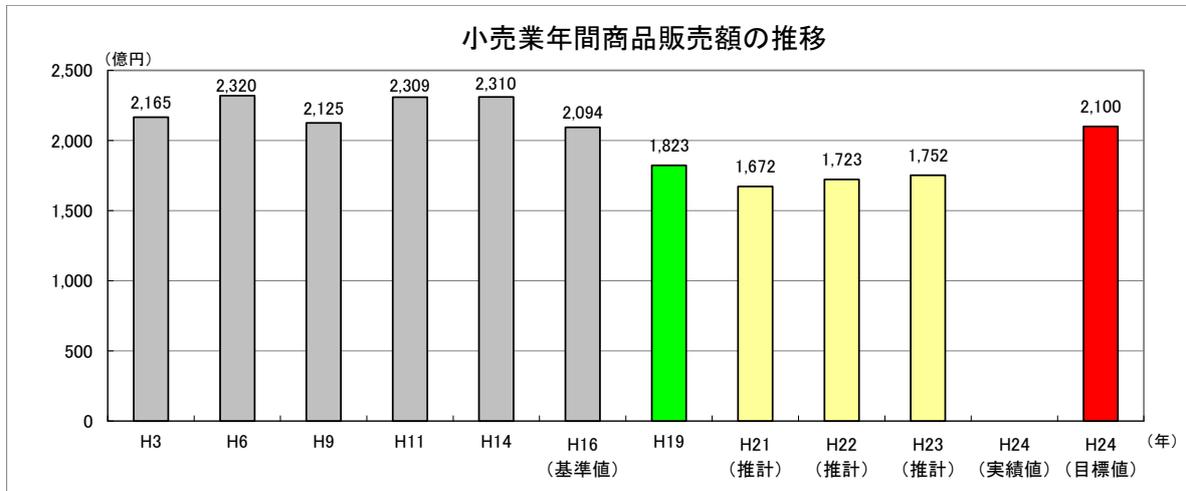
- ・カゴシマシティビュー運行事業（H6年度～）
- ・観光レトロ電車製作事業（H23年度～H24年度）[追加]

実施時期	平成6年度～平成24年度【完了】
事業概要	<p>本市を訪れる観光客の回遊性を高めるとともに、観光スポット巡りの利便性・快適性向上を図るため、ユニークな車両に仕上げた市内観光周遊バス“カゴシマシティビュー”を鹿児島中央駅を起点に運行する。</p> <p>また、本市で路面電車の運行が開始されてから平成24年12月1日に100周年を迎えることを記念して、観光レトロ電車を製作し、運行を開始する。</p>
事業成果	<p>シティビューは、平成19年4月にウォーターフロントコースを一部変更したのち、20年10月に運行時刻を一部変更、21年7月に臨時バス停を開設し利便性を向上させる取組を実施するとともに、ルート上で別途開始した冬季光の回廊事業による景観向上の効果も取り入れるなどした結果、平成23年度には、平成18年度比で約18%増となる224,288人の方に利用いただいた。</p> <p>また、観光レトロ電車は、12月1日の運行開始に先駆けて、ネーミング（愛称）の募集、100周年を記念する電車のラッピング、正解者に記念品を贈呈するクイズ電車の運行、記念グッズ販売、記念乗車券発行等の記念事業を企画・実施し、気運の醸成と事業成果の拡大に努めている。</p>

(3) 目標3「南九州随一の中心市街地の商店街活性化」

目標指標	基準値 (H16年)	現況値 (H23年)	目標値 (H24年)
小売業年間商品販売額	209,421百万円	175,200百万円	210,000百万円

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



目標3は、基本方針3「多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり」のもとに「南九州随一の中心市街地の商店街活性化」を掲げ、指標として中心市街地の小売業年間商品販売額を設定した。小売業年間商品販売額は、長引く景気低迷に伴う消費の冷え込みや電子商取引などの通信販売の増加、中心市街地外への大型商業施設の立地等の影響によって低迷しており、目標は達成できない見込みである。

本指標については、平成3年から16年の間、中心市街地の小売業年間商品販売額が概ね2,100億円から2,300億円の間に推移していたこと、及び18年から19年にかけて中心市街地外に大型商業施設が相次ぎ出店したこと等を考慮し、大型商業施設の影響が顕著となる以前の16年当時の状況に回復することを目標として2,100億円を目標値に定めた。

目標値2,100億円を達成するにあたり、中心市街地活性化に向けた特別の取組をしない場合には、小売業年間商品販売額が6年から16年の間に年平均0.98%減少した傾向が24年まで続くと想定し、約158億円の減少、さらに中心市街地外に進出した大型商業施設の影響によって150億円の減少と推計し、16年の基準値から計308億円減少することを想定したうえで、計画掲載事業の取組による上積みを目指した。

これに対し、23年の推計値は1,752億円で、16年に比べて342億円減少している。想定した308億円を大きく上回る減少幅となっているのは、中心市街地外に大型商業施設が出店した影響や、20年に発生したリーマン・ブラザーズ社の倒産による世界的な金融危機が日本の経済環境を一層厳しくした影響、電子商取引等の通信販売を利用する消費者の増加により、店頭販売を基礎とする中心市街地の商店が想定以上に厳しい影響を受けたこと等によるものと考えられる。

※ 電子商取引に関する市場調査（経済産業省）によると、消費者向け電子商取引の市場規模（B-toC-EC市場）の内、国内の小売・サービスは、18年の約2.7兆円から、23年には約5.9兆円へと急拡大している。

さらに、景気低迷の影響は、中心市街地の空き店舗率にも影響を与え、18年度の8.4%から、23年度には10.2%へと上昇しており、このことも小売業年間商品販売額を押し下げる要因になっている。

このような中、掲げた目標値の達成に向けて、鹿児島中央駅地区においては、中央町22、23番街区の市街地再開発事業等を実施し、周辺商店街との連携策も組み合わせた商業活性化に努めるとともに、アミュプラザ鹿児島は、推計の160億円を上回る228億円を23年度に売り上げた。いづろ・天文館地区においては、アーケードでつながった商店街をショッピングモールに見立てた、いづろ商店街ショッピングモール化事業や街なか空き店舗活用事業等の各種事業を実施し、さらに、毎年度のフォローアップに基づき、閉店した三越鹿児島店の空きビルをマルヤガーデンズとしてオープンさせる呉服町6番街区等整備事業を追加実施した。

しかしながら、(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)が長引く景気低迷の影響を受けて事業延期となり、見込んでいた70億円とその波及効果による14億円の販売額増を得られず、また、フォローアップによる追加実施で24年5月にオープンしたシネマコンプレックス・商業施設等の複合施設「LAZO表参道(天文館シネマパラダイス)」の効果も現時点ではまだ十分に発現できていないことなどから、目標は達成できない見込みである。

なお、中心市街地では、観光客の増などにより飲食・宿泊、サービス業などの集積が進みつつあるなど、小売業以外のニーズも積極的に取り込もうとする変化が起き始めていることから、今後はより広範な業態の動向を把握していく必要がある。

## 2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

### ①(仮称)いづろ・天文館地区商業活性化事業(山形屋増床整備を含む)

【再掲】15ページを参照

### ②再開発事業に伴う商業の活性化

- ・中央町22番街区市街地再開発事業(H17年度～H21年度)
- ・中央町23番街区市街地再開発事業(H17年度～H22年度)
- ・中央町22番街区テナントミックス事業(H21年度～)
- ・商店街ファサード整備事業(H21年度～)
- ・通りとオープンスペースを活用したソフト事業(H21年度～)

実施時期	平成17年度～【実施中】
事業概要	九州新幹線全線開業に向けて、鹿児島中央駅周辺の活性化に資するため、中央町22番街区及び23番街区に商業・業務(・住居)機能を有する再開発ビルを整備するとともに、両施設がある一番街商店街と一体となって回遊性と集客力を高めるために、通りとオープンスペースを活用したソフト事業等を実施した。
事業成果	平成22年にオープンした二つの再開発ビルには、整備された88戸の全室に入居者があり、都心居住者の増加が商業の活性化に寄与している。また、権利床に継続出店した街の老舗商店と、テナントミックス事業によって誘致出店した新たな店舗で構成された商業施設には、1日平均900人の買い物客が訪れ、毎月第4土曜、日曜日に商店街と連携して開催する物産展なども好評で、来街者促進と賑わい創出に貢献している。 さらに、保留床においても、平成24年7月現在で13社が新たに事務所を構えるなど、業務機能の面においても地域の活性化に寄与している。 商店街ファサード整備については、新幹線開業を機にカラー舗装を行い、

統一フラッグを設置したことで、商店街の統一感を演出し、景観の向上に寄与した。
--

③L A Z O表参道（天文館シネマパラダイス）の整備 [追加]

【再掲】 16ページを参照

④天文館ショッピングモール化の推進

【再掲】 17ページを参照

⑤呉服町6番街区等整備事業 [追加]

【再掲】 16ページを参照

## [4] 中心市街地の現状分析

### 1. 社会環境の変化

#### (1) 市全体と中心市街地の人口・世帯数

本市の人口は、平成16年11月の吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町との合併によって大幅に増加し、その後も微増傾向を続けている。

中心市街地の人口も、平成11年5月策定の旧基本計画による取組以降、緩やかな増加に転じ、第1期基本計画による市街地再開発事業などの街なか居住の推進や、民間マンションの建設によって、平成21年以降、その増加率は高めで推移している。

世帯数においても、中心市街地内の住宅供給によって、人口の増加率を超える増加となっている。

#### ○中心市街地の人口

平成 18 年  
27,698 人  
100%



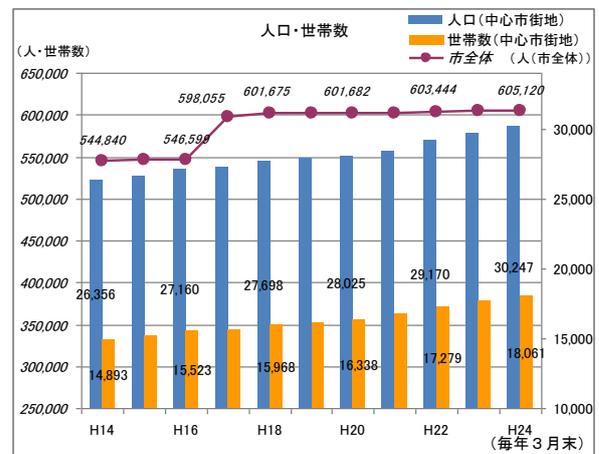
平成 24 年  
30,247 人  
109.2%

#### ○中心市街地の世帯数

平成 18 年  
15,968 世帯  
100%



平成 24 年  
18,061 世帯  
113.1%



(資料：住民基本台帳)

#### (2) 中心市街地の老年人口率

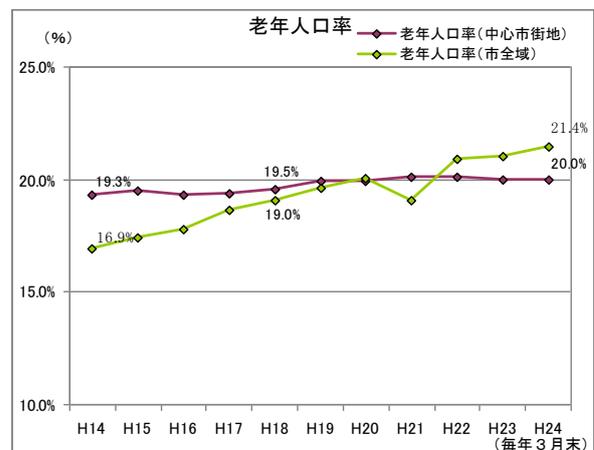
中心市街地の老年人口率は、平成18年時点では市全体よりも高い状況にあったが、平成24年には市全体を1.4%下回り、20%程度で安定している。

平成 18 年  
19.5%  
(19.0%)



平成 24 年  
20.0%  
(21.4%)

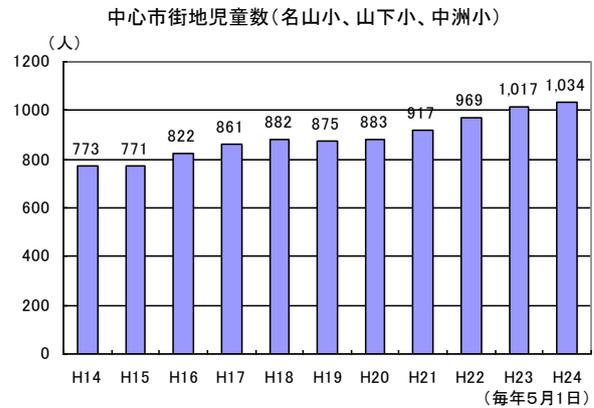
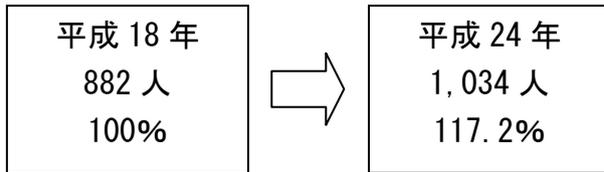
※ ( ) 内は市全体の老年人口率



(資料：住民基本台帳)

### (3) 中心市街地の児童数

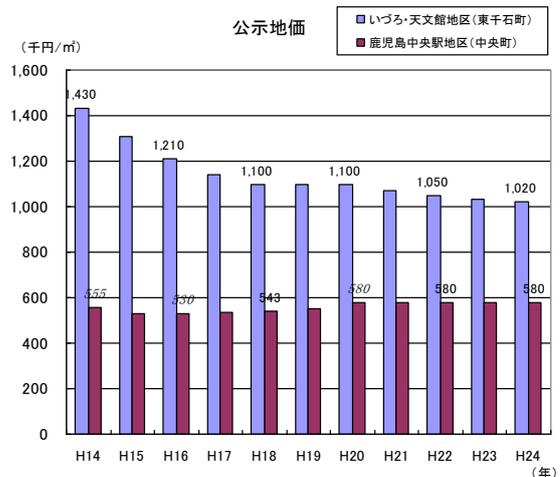
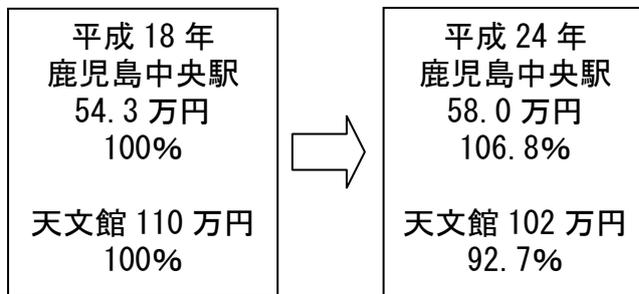
児童数は、少子化の影響から全市的には減少しているが、中心市街地（計画区域内の名山小、山下小、中洲小）においては、前出の人口と同様に増加している。



(資料：市教育委員会)

### (4) 中心市街地の地価

中心市街地の公示地価は、鹿児島中央駅地区の中央町で増加傾向に転じた。天文館では減少傾向が続いているが、平成18年以前の大幅下落傾向からは改善した。



(資料：国土交通省地価公示)

## 2. 都市環境の変化

### (1) 鹿児島中央駅の乗客数

平成16年3月13日に鹿児島中央駅・新八代駅間で九州新幹線が部分開業したことにより、これまで博多駅まで約4時間かかっていたものが、最短2時間12分で移動可能となり、鉄道の高速化による時間短縮効果もたらされた。

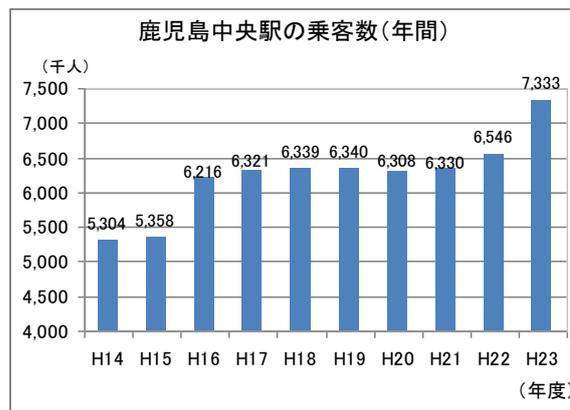
鹿児島の陸の玄関である鹿児島中央駅の乗客数は、平成14年度まで緩やかな減少傾向にあったが、平成16年の九州新幹線部分開業によって600万人を超え、その状況は現在も続いている。

さらに、平成23年3月12日に九州新幹線が全線開業し、博多駅までの移動時間が最短1時間17分に短縮されたことなどで、平成23年は乗客数が大幅に増加した。

平成18年度  
6,339千人  
100%



平成23年度  
7,333千人  
115.7%



(資料：JR九州鹿児島支社)

### (2) 市営電車の一日常利用者数

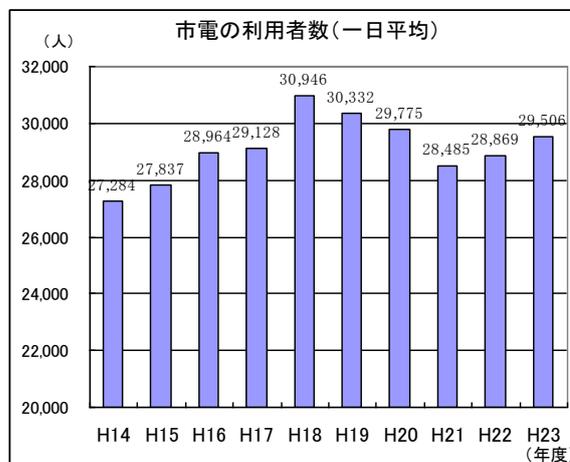
市営電車の1日平均利用者数は、平成14年度以降回復傾向にあったが、少子高齢化の進行やモータリゼーションの進展等により、平成19年度に減少に転じ、平成22年度からは再び持ち直している。市交通局では、軌道敷の緑化や軌道改良、停留場上屋整備などを引き続き実施し、利用者の利便性向上を進めている。

平成23年3月の九州新幹線全線開業により、鹿児島中央駅を訪れる観光客が増えていることから、来街者の回遊性向上を図るため、市営電車のさらなる活用を進める必要がある。

平成18年度  
30,946人/日  
100%



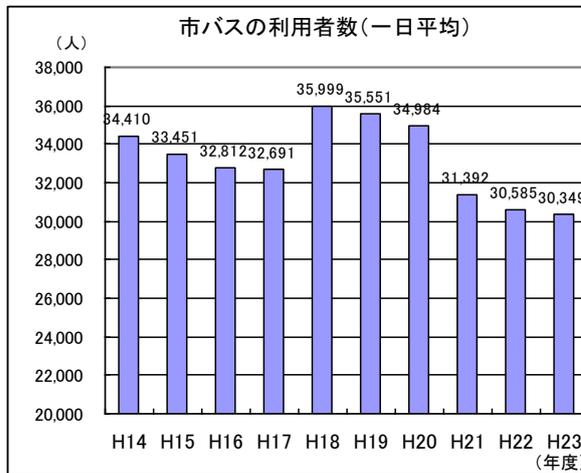
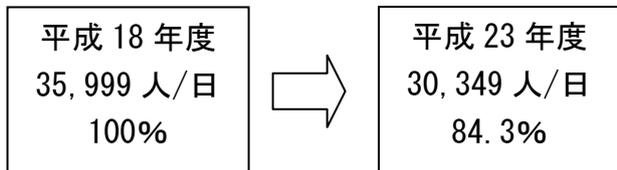
平成23年度  
29,506人/日  
95.3%



※平成18年3月以降は敬老パス一部負担利用者を含む (資料：市交通局)

### (3) 市営バスの一日常利用者数

市営バスの利用者は、少子高齢化の進行やモータリゼーションの進展により、減少傾向が続いている。平成18年度に増加しているのは、敬老パスによる一部負担利用者の把握が可能となったことによる。平成21年度以降に減少しているのは、民間事業者との競合等による影響が大きい。

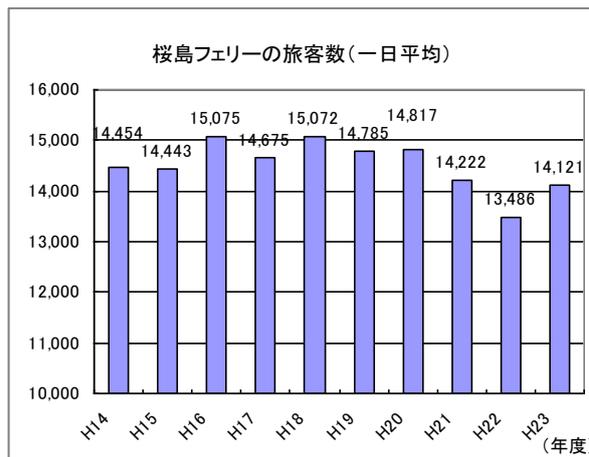
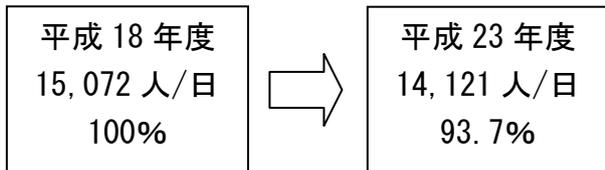


※平成18年3月以降は敬老パス一部負担利用者を含む(資料:市交通局)

### (4) 市営桜島フェリーの一日常利用者数

桜島フェリーは、桜島住民の中心市街地への唯一の公共交通であるとともに、観光客の桜島へのアクセス手段であり、さらには、大隅半島と薩摩半島を繋ぐ人・物流の重要な交通・輸送手段であることから、その役割は中心市街地の発展にも大きな影響を与えている。

利用者数は、平成18年度から平成20年度まではほぼ横ばいで推移していたが、平成21年度から平成22年度にかけては、宮崎県に広がった口蹄疫被害、頻繁に起こる桜島南岳噴火、ガソリン高騰などが影響し減少傾向を示した。しかし、平成23年度は、九州新幹線全線開業の効果もあり、増加傾向を示している。



(資料:市船舶局)

(参考)

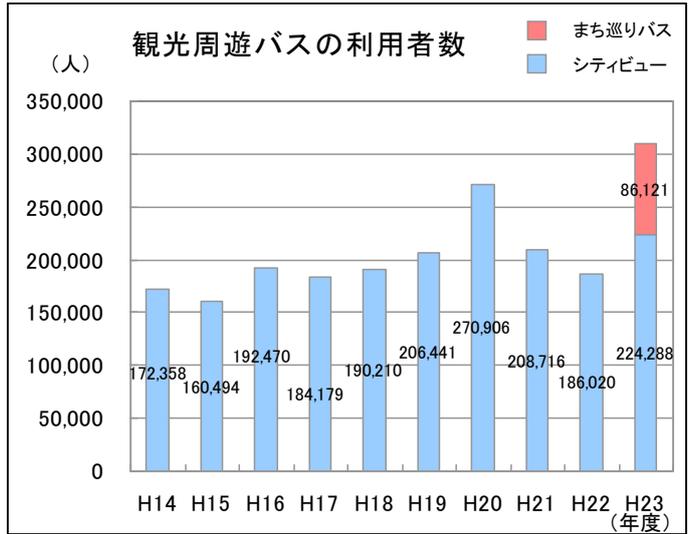
- ・平成16年11月の旧桜島町との合併により、町営の桜島フェリーを本市が引き継ぎ、現在、船舶6隻を所有、24時間運航を実施。
- ・平成23年度年間旅客数約510万人、車両約150万台は世界屈指の輸送量。

### (5) 観光周遊バスの利用者数

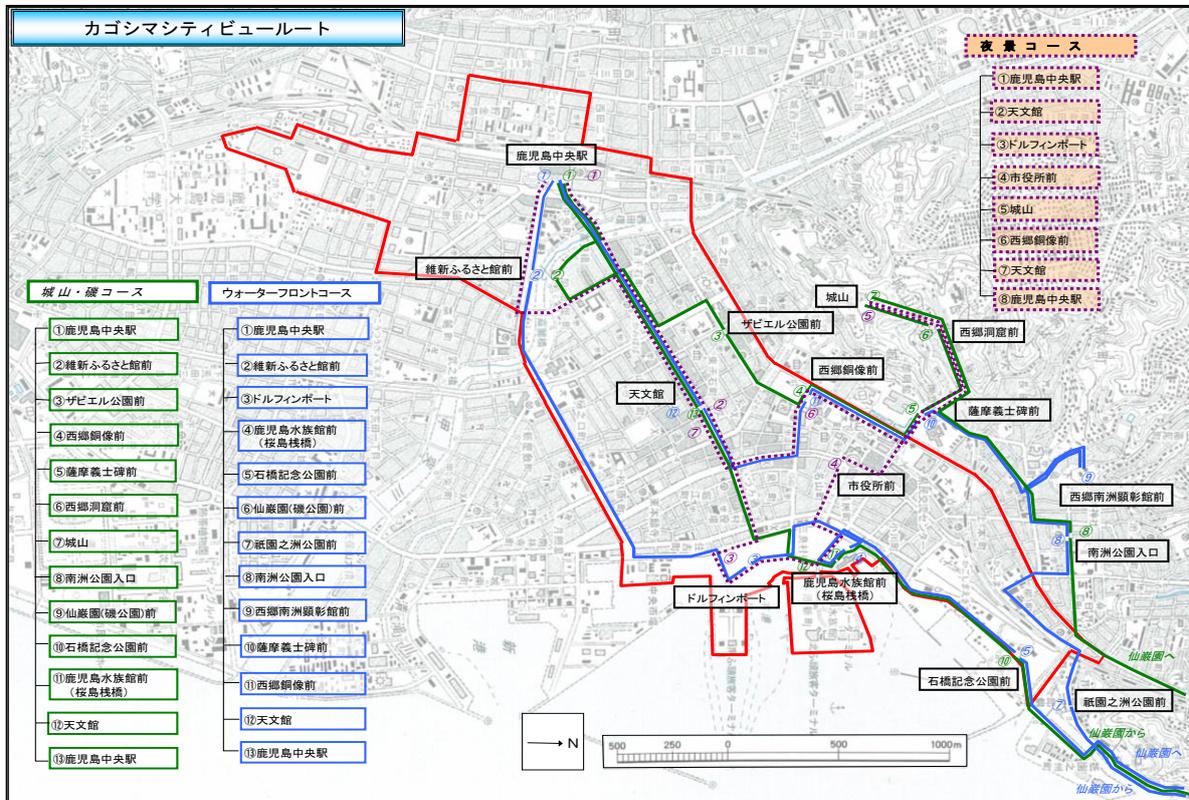
市内の主要観光スポットを巡る周遊バスとして、平成6年3月に運行を開始したカゴシマシティビューの利用者は、九州新幹線部分開業後は堅調に増加し、平成20年度には大河ドラマ「篤姫」放映の効果もあり、過去最高の27万人を記録した。平成21年以降は、災害等による観光客の減少に伴って、一旦は減少したが、平成23年度には九州新幹線全線開業の効果もあり、再び増加傾向となっている。

また、平成23年から運行が開始されたまち巡りバスは、利用者が8万人を超え、カゴシマシティビューと合わせて30万人超（過去最高）が観光周遊バスを利用した。

平成18年度 190,210人 100%	⇒	平成23年度 310,409人 163.2%
----------------------------	---	------------------------------



(資料：いわさきバスネットワーク(株)、市観光統計)



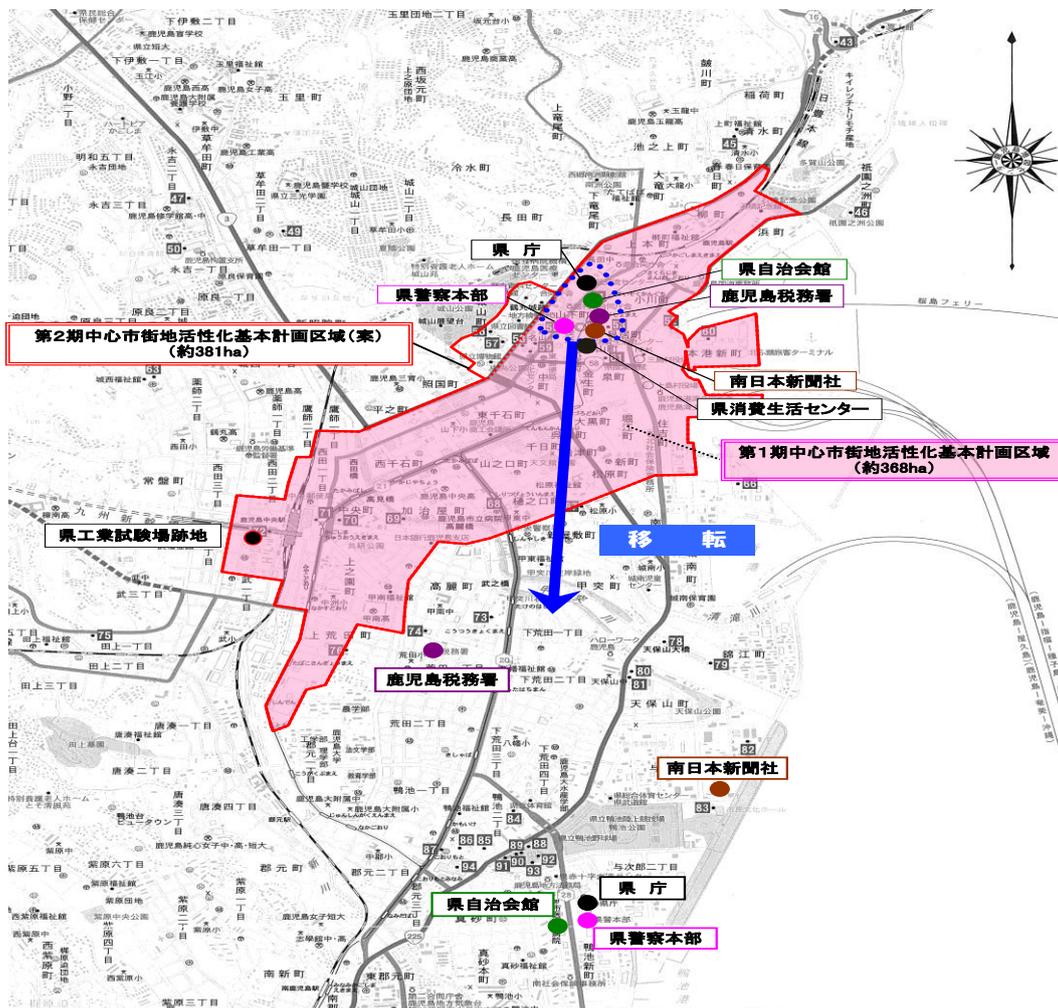
## (6) 中心市街地から移転した公共施設等

近年の中心市街地から区域外への、主な公共施設等の移転状況は下表のとおりである。県庁等が与次郎ヶ浜地区に移転したが、それらの跡地には公共施設を整備するなど、都市機能やにぎわいと活力を低下させないための対応を行っている。市役所に隣接する県警察本部跡地については、市役所庁舎の建設を予定している。県工業試験場跡地については、周辺街区を含め、現在、鹿児島中央駅西口地区開発連絡会（鹿児島県、九州旅客鉄道㈱、日本郵政㈱及び鹿児島市）において活用策の検討が進められており、暫定的対応として、周辺の渋滞の改善を図るため、一部をバス専用駐車場とする案を県が示している。

### ○中心市街地から移転した主な公共施設等

施設名	移転年	敷地面積(㎡)	職員数等	跡地利用(現況)
県庁	H8	約 23,170	約 2,200 人	かごしま県民交流センター
県警察本部	H8	約 3,685	約 700 人	鹿児島市役所本庁舎西別館 (仮称)整備予定
県自治会館	H8	約 2,338	年間宿泊者:約 23,000 人 会議:約 3,000 回	消防庁舎・ かごしま市民福祉プラザ
南日本新聞社	H13	約 3,583	約 560 人	市役所みなと大通り別館 及び駐車場
鹿児島税務署	H13	約 2,352	約 200 人	
県消費生活センター	H23	約 380	14 人	コンビニエンスストア

### 中心市街地から移転した公共施設等



### (7) 中心市街地に整備された新たな都市機能施設等

平成10年以降、中心市街地に整備された主な都市機能施設は下表のとおりである。前述の公共施設等の移転を受けて、跡地活用等により整備された公共施設に加え、鹿児島中央駅周辺やウォーターフロント地区の整備により新たな商業施設がオープンして、中心市街地のにぎわい拠点が生まれている。

第1期基本計画の期間中においては、いづろ・天文館地区に子育て支援施設「親子つどいの広場（なかまっち）」や、閉店した三越鹿児島店跡にマルヤガーデンズが整備された。鹿児島中央駅地区においては、観光交流センターが整備された。

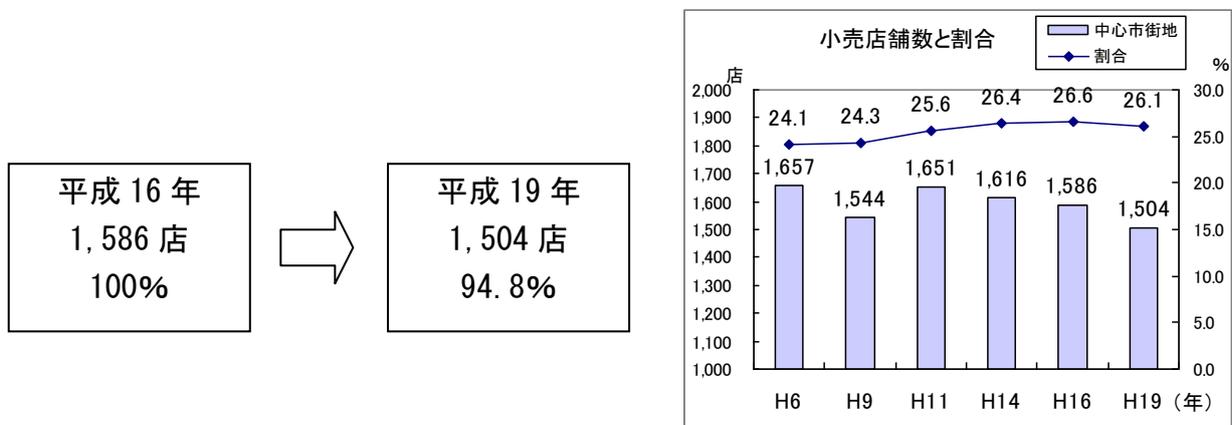
#### ○中心市街地に新たに整備された主な都市機能施設（H10年以降）

施設名	設置年	備考	
かごしま近代文学館・メルヘン館	平成10年	公共施設(市)	
鹿児島市勤労者交流センター	平成12年	公共施設(市)	市街地再開発ビル保留床取得
消防庁舎・かごしま市民福祉プラザ	平成12年	公共施設(市)	県自治会会館跡地
ソフトプラザかごしま	平成13年	公共施設(市)	
かごしま県民交流センター	平成15年	公共施設(県)	県庁跡地
ソーホーかごしま	平成16年	公共施設(市)	旧南日本新聞社ビル活用
市役所みなと大通り別館	平成16年	公共施設(市)	旧南日本新聞社ビル活用
駅ビル(アミュプラザ鹿児島)	平成16年	商業施設(民間)	鹿児島中央駅ビル
ドルフィンポート	平成17年	商業施設(民間)	鹿児島港本港区
NHK鹿児島放送局	平成18年	公共施設(NHK)	
親子つどいの広場「なかまっち」	平成20年	公共施設(市)	自転車等駐車場と合築
マルヤガーデンズ	平成22年	商業施設(民間)	旧三越鹿児島店跡
観光交流センター	平成22年	公共施設(市)	

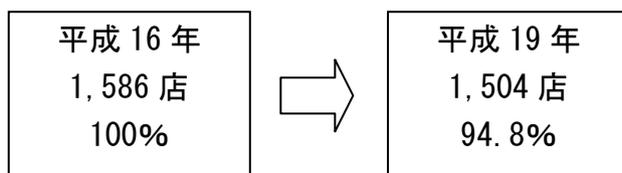
## 3. 経済環境の変化

### (1) 中心市街地の小売店舗数

中心市街地の小売店舗数は減少傾向にあり、これは市全体の傾向と同じである。平成19年の1,504店は、平成16年比で5.2%の減となっている。



(資料：商業統計調査)

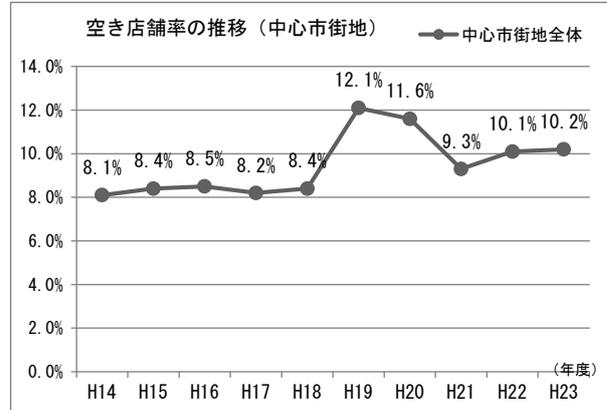
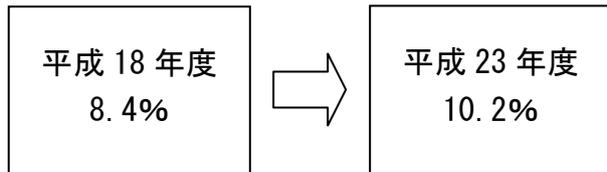


## (2) 中心市街地の空き店舗率

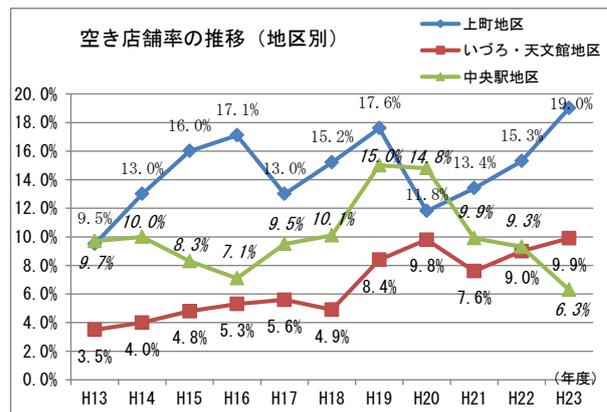
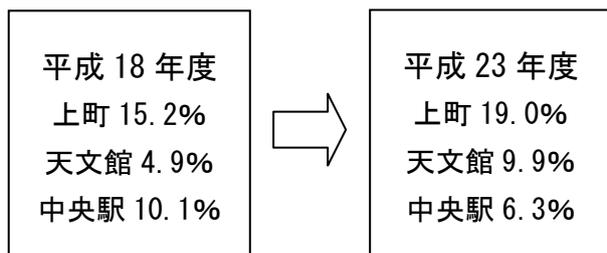
中心市街地の空き店舗率は、従来8%前後で推移していたが、平成18年度から19年度にかけて中心市街地外に大型商業施設が相次いで進出したことなどにより、平成19年度には12.1%に増加した。

その後、第1期基本計画に基づく市街地再開発事業やアーケード整備、街なか空き店舗活用事業の実施などによって空き店舗率は下がったが、依然9~10%程度の高い水準で推移している。

### ○空き店舗率の推移（中心市街地全体）



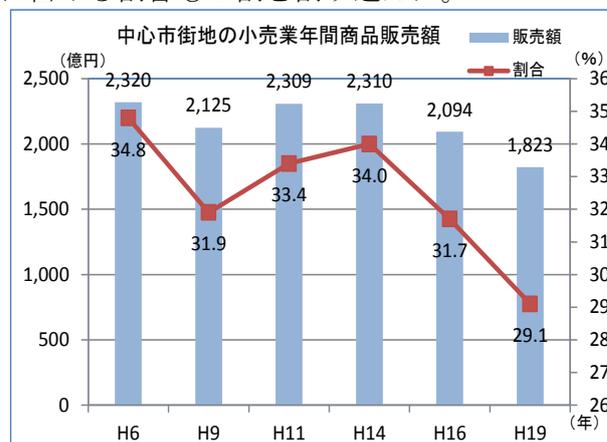
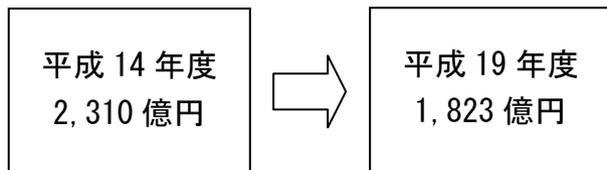
### ○空き店舗率の推移（地区別）



※毎年度2月に調査を実施（資料：市産業支援課）

## (3) 中心市街地の小売業年間商品販売額

中心市街地の小売業年間商品販売額は、市全体の3割を超え、本市経済の発展に大きな役割を果たしてきたが、直近の平成19年商業統計では、16年から販売額で12.9%減少、14年から21.1%減少し、市全体に占める割合も3割を割り込んだ。

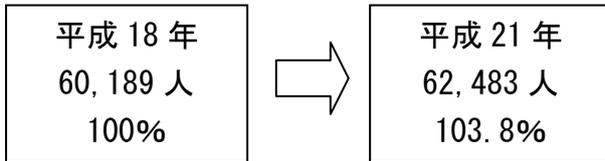


(資料：商業統計調査)

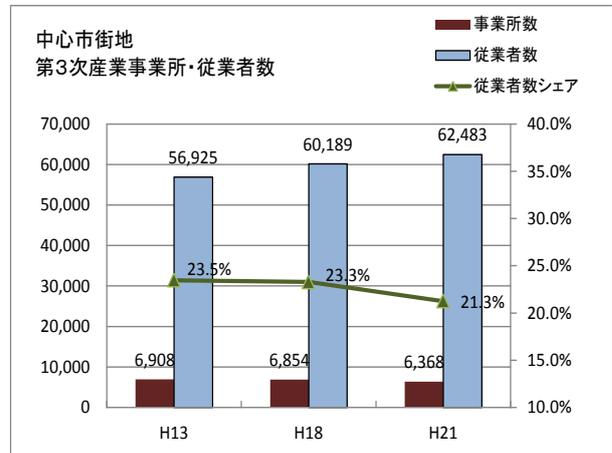
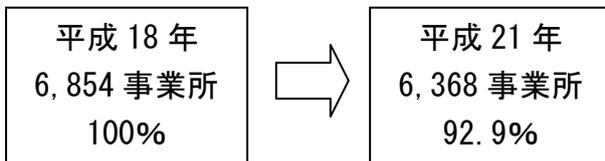
#### (4) 中心市街地の第3次産業従業者数・事業所数

中心市街地の第3次産業の従業者数は、平成18年から21年にかけて増加しているが、事業所数は減少している。これは、データの出典が事業所・企業統計調査から経済センサス基礎調査へと変更された影響も一部考えられる。中心市街地における第3次産業従業者数は増加しているものの、市全体に対するシェアは減少傾向となった。

##### ○第3次産業従業者数



##### ○第3次産業事業所数

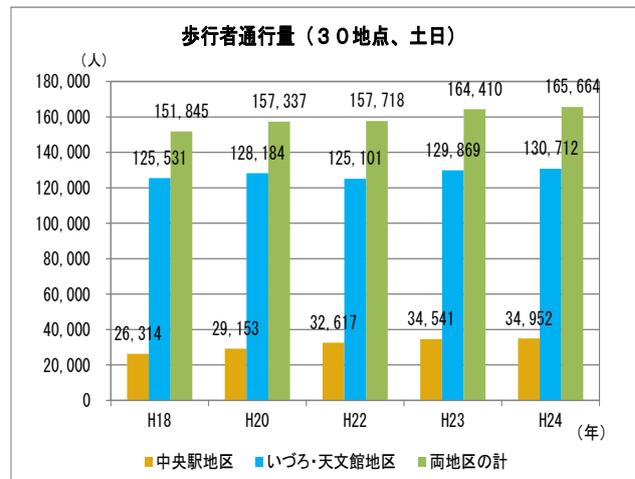
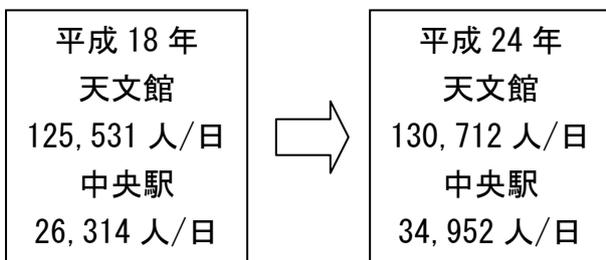


(資料：H13、H18各10月事業所企業統計  
H21.7経済センサス基礎調査)

#### (5) 中心市街地の歩行者通行量

中心市街地の1日平均歩行者通行量(土曜日、日曜日)は、最も多くの市民等が訪れる繁華街いづろ・天文館地区を中心に動向を把握してきた。同地区(20地点)については、第1期基本計画の取組などによって減少傾向から下げ止まり、24年の実績値は計画期間内で最も高くなった。

一方、新幹線部分開業以降、着実ににぎわいを増しつつある鹿児島中央駅地区(10地点)においては、歩行者通行量は順調に増加の傾向を続けており、18年から24年までの6年間では、いづろ・天文館地区(20地点)の約5千人増を上回る、8千人超の増加となった。



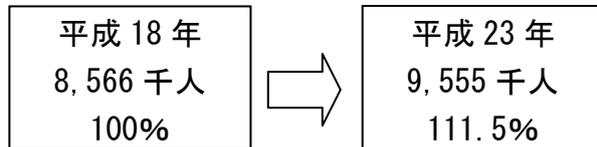
(資料：市歩行者通行量調査)

## (6) 年間入込観光客数及び年間宿泊観光客数

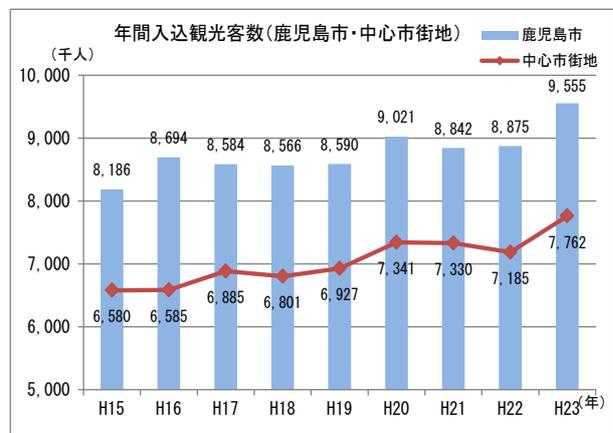
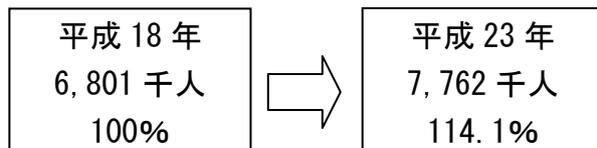
本市の年間入込観光客数は、平成10年以降、概ね820万人で推移し、平成16年3月の九州新幹線の部分開業による効果で平成16年は869万4千人を記録した。さらに、全線開業した平成23年には過去最高の955万5千人を記録し、その傾向は中心市街地への入込観光客数の増にも表れている。また、年間宿泊観光客数も増加し、平成23年の326万1千人は、昭和48年の記録を抜いて過去最高となった。

近年、ライフスタイルの多様化等により、旅行についても多種多様なニーズが生まれてきている。インターネットやスマートフォンの普及に伴い、観光客へのきめ細かな情報提供が一層重要となってきている。また、東アジアなどにおける経済発展を背景として、外国人観光客も急速に増加を続けていることから、国内外から訪れる多くの観光客により長く滞在し、より満足してもらえるための受入体制づくりも重要である。

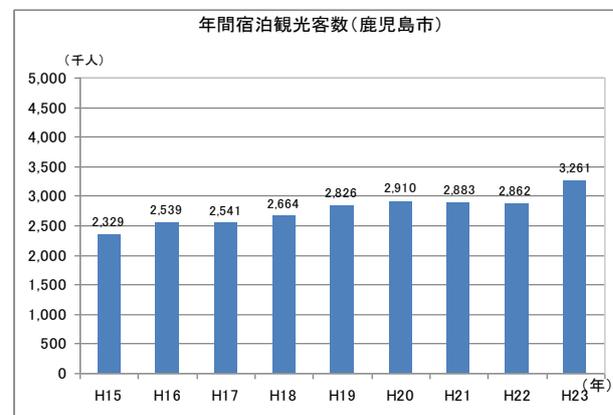
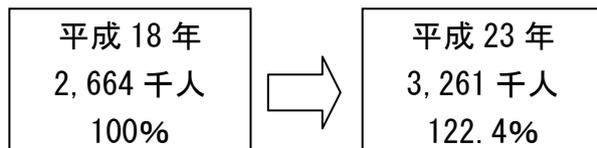
### ○鹿児島市の年間入込観光客数の推移



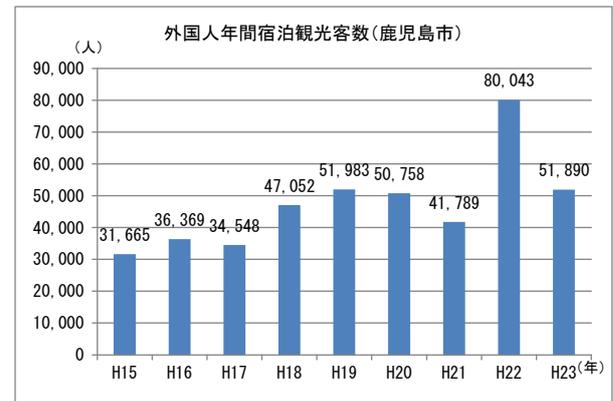
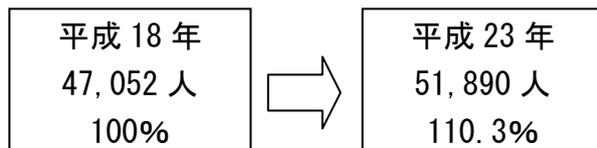
### ○中心市街地の年間入込観光客数の推移



### ○年間宿泊観光客数の推移



### ○外国人年間宿泊観光客数の推移



(資料：市観光統計)

## [5] 地域住民のニーズ等の把握・分析

### 1. 中心市街地来街者満足度調査報告書（平成23年8月）

同報告書は、中心市街地に訪れた来街者を対象として、中心市街地に来た目的や現状の満足度等の実態を把握するために行ったアンケート調査の結果を整理したものである。

- ・ 調査時期：平成23年8月18日（木）、21日（日）の2日間
- ・ 調査場所：鹿児島中央駅地区（キャンセビル前、一番街商店街入口周辺、鹿児島中央駅西口周辺）、いづろ・天文館地区（天文館本通り、G3アーケード、納屋通り）、上町地区（鹿児島駅周辺、滑川市場周辺、桜島フェリーターミナル周辺）
- ・ 調査方法：高校生以上を対象とした無作為による直接ヒアリング
- ・ 調査数：498（鹿児島中央駅地区172、いづろ・天文館地区184、上町地区142）

#### (1) アンケート調査結果

##### ①来街者傾向

- ・ 男女比では、約6割が女性
- ・ 年代は20代が最も多く19.2%、次いで60代の17.6%
- ・ 職業別では会社員が31.2%と最も多い
- ・ 居住地は市内居住者が77.8%、県外は9.3%

##### ②中心市街地に来街した目的

- ・ 「日用品」の買い物が24.1%
- ・ 「特定品」が12.4%、「ウィンドウショッピング」が6.4%
- ・ 「仕事」が10.8%
- ・ 「観光」が8.4%

##### ③中心市街地への交通手段

- ・ 「バス」利用が最も多く25.4%、「JR」「市電」を合わせると公共交通利用は43.6%
- ・ 「徒歩」は19.8%
- ・ 「自転車・バイク」利用は12.7%
- ・ 「自家用車」利用の18.3%

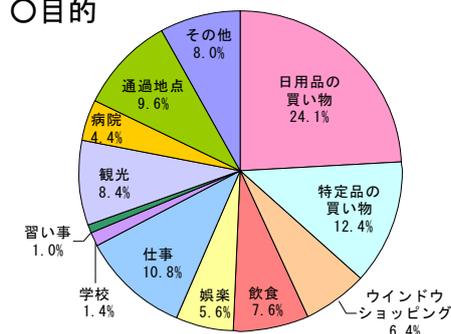
##### ④中心市街地への来街頻度

- ・ 「ほとんど毎日」が最も多く27.6%
- ・ 「週に2～3回」と「週に1回」を合わせると33.0%
- ・ 少なくとも月1回は利用される方が82.3%

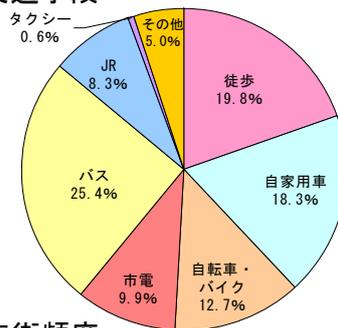
##### ⑤中心市街地の滞在時間

- ・ 「1時間未満」が最も多く21.6%
- ・ 2時間未満を合計すると42.8%
- ・ 2時間以上の長時間滞在は51.7%

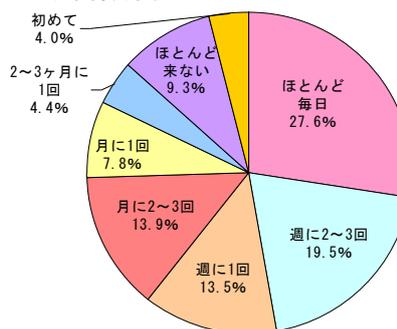
#### ○目的



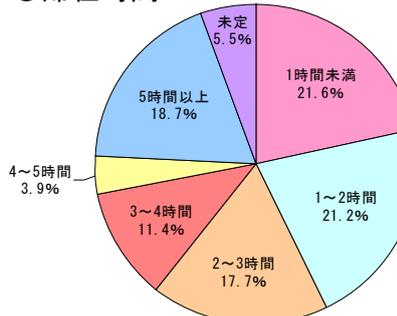
#### ○交通手段



#### ○来街頻度



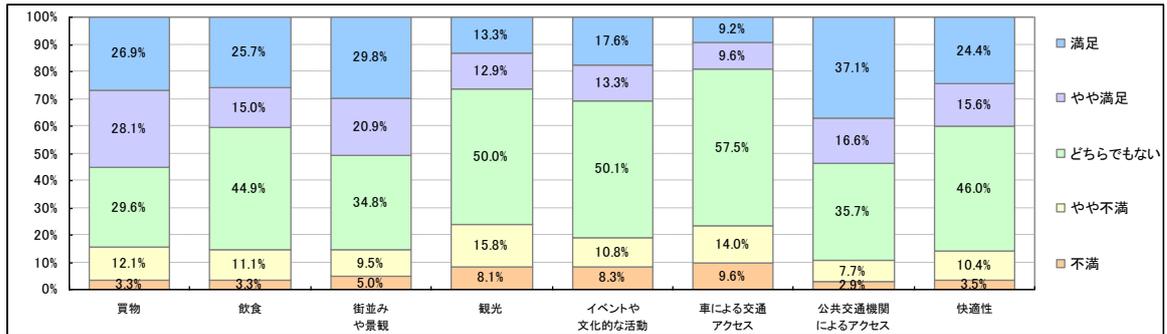
#### ○滞在時間



## ⑥中心市街地の満足度及び重要度

- 満足度が高い項目は、「買物」「街並みや景観」「公共交通機関によるアクセス」で、満足・やや満足の割合が50%を超えており、これらは、街に足を運び楽しむための重要度においても高い結果となった。
- 「観光（わかりやすい案内やおもてなし）」「車による交通アクセス」の不満割合は比較的高い。
- 地区別では、全般的に不満割合が高いのは、いづろ・天文館地区であった。また、全般的に重要度の割合が高いのもいづろ・天文館地区であった。

### 満足度



【補足】上記分野の質問内容について

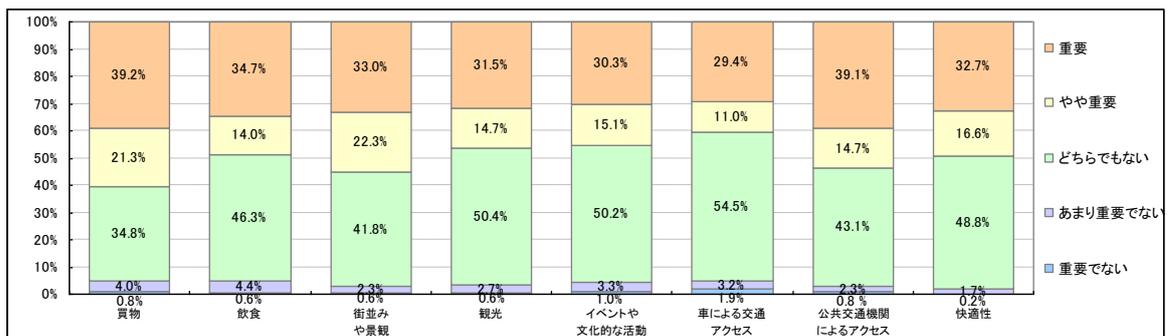
- ・買物：いろいろなお店がある、商品が揃っているなど
- ・飲食：おいしい店や雰囲気のいい飲食店があるなど
- ・街並みや景観：ゴミが少なく、きれいな街であるなど
- ・観光：分かりやすい案内や、おもてなしができている
- ・イベントや文化的な活動：話題性があり行きたくないようなイベントがあるなど
- ・車による交通アクセス：この地区への車による交通アクセスの利便性について
- ・公共交通機関によるアクセス：この地区への公共交通機関によるアクセスの利便性について
- ・快適性：ゆったりと快適に回遊できる、時間を過ごせるなど

DI値：無回答を除いた構成比に対して、次の計算式を用いて算出

DI値 = [(満足% × 2) + (やや満足% × 1) - [(不満% × 2) + (やや不満% × 1)]]

項目	満足	不満
平成 21 年度	「公共交通機関によるアクセス」 91.4 (DI 値)	「車による交通アクセス」 6.5 (DI 値)
平成 22 年度	「公共交通機関によるアクセス」 64.2 (DI 値)	「イベントや文化的な活動」 ▲3.3 (DI 値)
平成 23 年度	「公共交通機関によるアクセス」 77.4 (DI 値)	「車による交通アクセス」 ▲5.2 (DI 値)
中央駅地区	「買物」 99.4 (DI 値)	「車による交通アクセス」 4.2 (DI 値)
いづろ・天文館地区	「公共交通機関によるアクセス」 94.5 (DI 値)	「車による交通アクセス」 ▲19.6 (DI 値)
上町地区	「公共交通機関によるアクセス」 65.4 (DI 値)	「車による交通アクセス」 2.3 (DI 値)

### 重要度



【項目についての補足】

- ・買物：色々なお店がある、商品が揃っているなど
- ・飲食：美味しいお店や雰囲気のいい飲食店があるなど
- ・街並みや景観：ゴミが少なく、きれいな街であるなど
- ・観光：分かりやすい案内や、おもてなしができている
- ・イベントや文化的な活動：話題性があり行きたくないようなイベントがあるなど
- ・車による交通アクセス：この地区への車による交通アクセスの利便性について
- ・公共交通機関によるアクセス：この地区への公共交通機関によるアクセスの利便性について
- ・快適性：ゆったりと快適に回遊できる、時間を過ごせるなど

DI値：無回答を除いた構成比に対して、次の計算式を用いて算出

DI値 = [(重要% × 2) + (やや重要% × 1) - [(あまり重要でない% × 2) + (重要でない% × 1)]]

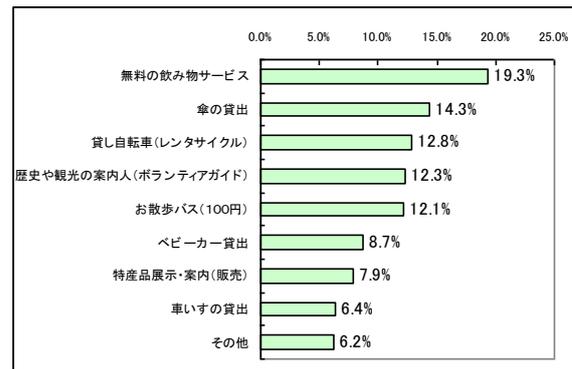
項目	満足	不満
平成 21 年度	「公共交通機関によるアクセス」 114.3 (DI 値)	「イベントや文化的な活動」 75.5 (DI 値)
平成 22 年度	「公共交通機関によるアクセス」 111.0 (DI 値)	「イベントや文化的な活動」 82.0 (DI 値)
平成 23 年度	「買物」 94.0 (DI 値)	「車による交通アクセス」 62.8 (DI 値)
中央駅地区	「買物」 92.7 (DI 値)	「街並みや景観」 53.4 (DI 値)
いづろ・天文館地区	「街並みや景観」 140.8 (DI 値)	「車による交通アクセス」 96.6 (DI 値)
上町地区	「公共交通機関によるアクセス」 64.9 (DI 値)	「飲食」 18.9 (DI 値)

## ⑦中心市街地に必要とされるサービス設備等

### 1) 必要なサービス

- ・中心市街地に必要なサービスとしては、「無料の飲み物サービス」が最も多く、19.3%の方が必要なサービスだと考えている。
- ・2番目に多いのが「傘の貸出」で14.3%を占めた。

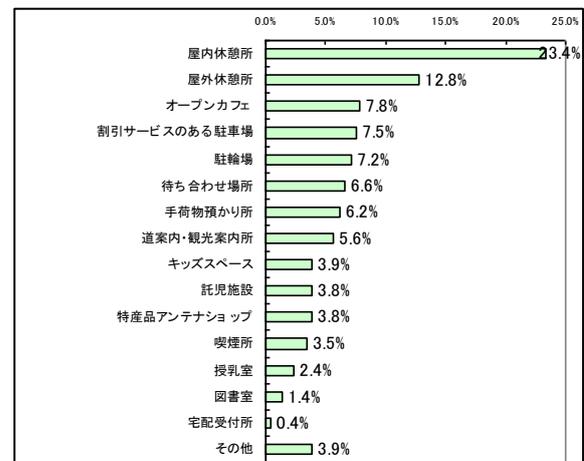
### ○この地区に必要なサービス



### 2) 必要な施設

- ・中心市街地に必要とされる施設としては、「屋内休憩所」が突出して多く、23.4%の方が必要と回答している。
- ・2番目に多い「屋外休憩所」12.8%を含めると約3分の1の方が休憩施設を求めている状況にある。

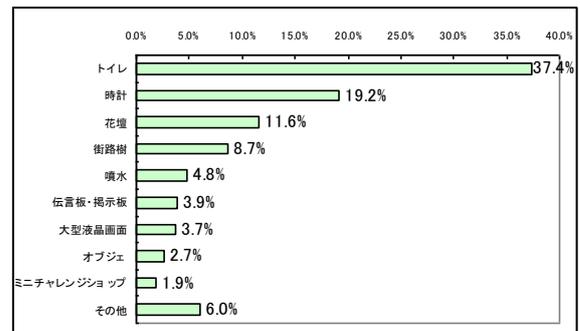
### ○この地区に必要な施設



### 3) 必要な設備

- ・必要な設備では、「トイレ」が37.4%と突出して多い。
- ・2番目は「時計」で19.2%の方が必要と回答している。

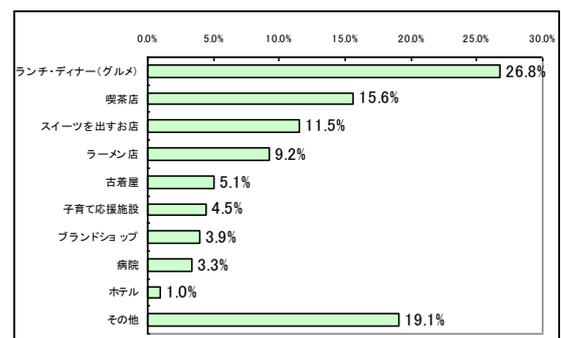
### ○この地区に必要な設備



### 4) 探すお店や施設

- ・中心市街地内で探すお店や施設の業態としては、「ランチ・ディナー」が最も多い。
- ・続いて「喫茶店」や「スイーツを出すお店」、「ラーメン店」が多く、約3分の2の方が飲食店を探している結果となった。

### ○この地区で探すお店や施設



## 2. 地区別意見交換会

本意見交換会では、第1期基本計画の進捗状況の報告を行うとともに、第2期基本計画策定に向けての参考とするため、中心市街地内の3地区において、地元住民や事業者から意見をいただいた。

### ○各地区開催状況

上町地区 (第1回)	日時：平成24年1月31日(火) 18:30～20:30 場所：アーバンポートホテル鹿児島(2F) 出席：15名
(第2回)	日時：平成24年3月8日(木) 18:30～20:30 場所：アーバンポートホテル鹿児島(2F) 出席：9名
(第3回)	日時：平成24年8月8日(水) 18:35～19:35 場所：易居町公民館 出席：16名
いづろ・天文館地区 (北部)	日時：平成24年2月10日(金) 19:30～21:00 場所：シダックス鹿児島天文館店 出席：26名
(南部)	日時：平成24年2月28日(火) 19:00～21:00 場所：ホテルレクストン鹿児島(3F) 出席：17名
(合同)	日時：平成24年3月16日(金) 19:00～21:00 場所：鹿児島商工会議所14階大会議室 出席：36名
(合同)	日時：平成24年8月1日(水) 18:30～20:10 場所：鹿児島商工会議所14階大会議室 出席：29名
鹿児島中央駅地区 (東口)	日時：平成24年2月20日(月) 18:30～21:00 場所：ホテルタイセイアネックス2号館3F会議室 出席：19名
(西口)	日時：平成24年2月16日(木) 19:30～21:30 場所：JR九州ホテル南館5F会議室 出席：20名
(合同)	日時：平成24年3月14日(水) 19:00～21:00 場所：JR九州ホテル南館5F会議室 出席：27名
(合同)	日時：平成24年8月3日(金) 14:00～15:10 場所：中央町公民館(アエールタワー2F) 出席：25名

## (1) 上町地区

参加者：商店街、上町タウンマネジメント（任意団体）、  
（株）まちづくり鹿児島、鹿児島商工会議所、鹿児島市

（まちづくりの方向）

- イベント等を中心とした集客力の向上
- イベント等の開催や観光客の受け入れに向けた環境整備

（主な意見）

- 地域環境の整備
  - ・ 駐車場等の環境整備
  - ・ 防犯灯の設置
- 朝市&フリーマーケットの内容等の見直し
  - ・ 現状の通り会中心の実施主体では、マンパワー・コスト的な課題があり平成25年度以降の朝市&フリーマーケット等の事業継続は未定
  - ・ 上町地区で活動している市民団体や通り会との連携、組織再編を今後検討
  - ・ あいご会や町内会との連携（小学生の露店や小学生家族のコーナーの設置）
  - ・ 各店舗にてワンコインで買い物ができる仕組みづくり
- モビリティ・レンタサイクル事業の再検討
  - ・ 空き店舗等を活用したサイクルステーションの整備（自転車や電動スクーターの貸し出し、史跡めぐりや観光案内機能）
  - ・ タウンマップや各商店街紹介資料の作成
  - ・ 利用者に対する特典、サービスの提供
  - ・ 不法駐輪の撤去自転車の活用
- 新たなイベント事業の展開
  - ・ 飲食関連事業の展開（食の祭典、フリーマーケットとの共同開催）
  - ・ 100円市の開催
- 情報発信
  - ・ 上町地区に関心を持ってもらうために「上町カレンダー」を作成（上町タウンマネジメント）
  - ・ 各団体と連携できるように地域情報をカレンダーへ書き込み可能でWEB公開している。
  - ・ facebook等を利用した情報発信力の強化に努める。
- その他
  - ・ 上町タウンマネジメントの平成25年度確定事業は、「さるっきんぐ」（上町の探検・散策）と「上町学舎」（上町地区のまちづくりワークショップ）の2事業

## (2) いづろ・天文館地区

参加者：商店街、天文館地区連絡協議会、We Love 天文館協議会、  
（株）まちづくり鹿児島、鹿児島商工会議所、鹿児島市

（まちづくりの方向）

- 昼も夜も楽しめる天文館づくり
- 来街者や観光客への情報提供機能の強化
- 集客、購買につながるソフト事業の展開
- 中央駅地区との連携による回遊性の向上

（主な意見）

- 一体的な街区の整備
  - ・ 北部地区と南部地区をつなぐジョイントアーケード等の整備
  - ・ 南部地区のショッピングモール化（G3アーケードも含めたモール化）
- 中央駅と天文館をつなぐ空間の整備

- ・中央駅から天文館までの空間整備（歩道へのカフェの設置、癒しの空間等）
- 空き店舗対策事業の強化
  - ・リーシング体制の強化（相談窓口の設置および一元化、リーシング人材の育成や雇用に対する助成、天文館の現状等に関するリーシング資料の整備）
  - ・リーシング活動の強化（写真展などを通じた空き店舗のPR、出店希望者と店舗オーナーとの面談会の設置）
  - ・意欲的な事業者への支援（2階店舗から1階店舗へ移転するなど、意欲的な事業者に対する支援）
- 来街者、観光客への案内機能の充実
  - ・案内板の改善（韓国語、中国語等の外国語表示、店舗情報が入った案内版の整備）
  - ・Wi-Fiの設置（アーケードでの事業やベルグ広場の催しなどの紹介、商店街・通り会での活用を目指す。）
  - ・天文館コンシェルジュの再構築（ボランティア頼りでない事業への再構築）
  - ・史跡看板へのQRコードの整備
- 集客力が高い大規模イベントの開催
  - ・「鹿児島ウィーク」の開催（おはら祭の前後を活用した大規模イベントの開催）
- 来街者のための交通機能の充実・強化
  - ・駐車場利用の利便性強化（コインパーキングでも使えるようなチケットのシステムづくり）
- 天文館のイメージづくり
  - ・時計台の設置（薩摩切子など特徴のある時計台やからくり時計の整備）
  - ・電車通りの街灯への飾り付け（おはら祭時に掲示するフラッグ）
- シネコンとの連携
  - ・フリーチケットやストーリーチケットの提供（半券で1ドリンクサービスなど）
- 天文館ブランド事業
  - ・We Love 天文館協議会にて現在進行中のミツバチプロジェクトをきっかけに天文館ブランドを立ち上げ、天文館のイメージアップとブランド取扱い店舗への集客及び回遊性を高める。

### （3）鹿児島中央駅地区

参加者：商店街、鹿児島中央駅東口地区イベント連絡会議、  
ウエストサイドストーリー実行委員会、(株)まちづくり鹿児島、  
鹿児島商工会議所、鹿児島市

（まちづくりの方向）

- 観光客の増加に対応した商業の振興
- 消費を喚起する多彩なソフト事業の展開
- 東口、西口の連携と一体的な振興
- 歴史・文化を生かしたまちづくりの推進

（主な意見）

- 集客の核となる拠点の整備
  - ・中央町19・20番街区市街地再開発事業（平成24年7月6日に（金）に市街地再開発準備組合が設立。平成29年度完成を目指す。）
  - ・観光客を西口にとどめる魅力的な場所の整備
- 通りの環境整備
  - ・歩きやすい空間づくり（宮田通り～西田本通り間の街灯設置や屋台等の整備）
  - ・天文館を含めた歴史ゾーンの整備（武地区等への回遊コースの整備）
- 鹿児島らしい駅前風景の整備
  - ・南国らしさを演出するシンボルツリーの設置
  - ・温泉を生かした雰囲気づくり（煙や湯気を出すような演出、雰囲気づくり）
  - ・モニュメント作成事業（商店街、通り会の由来や歴史をひも解き、観光や回遊性の

きっかけとなるようなモニュメント作成を検討（地域資源の活用）

■案内機能の整備充実

- ・西口の案内機能の充実
- ・店舗紹介の充実（店舗紹介ができる掲示板の整備、情報誌等の作成）
- ・ボランティアによるコンシェルジュの設置
- ・facebook や twitter を活用した情報発信

■多様なソフト事業の展開

- ・各種イベントの開催（ジャズステーション、餅つきや豆まき等の定期的な開催、合同婚活等のイベント）
- ・共同販促事業の実施（地域限定商品券の発行、スタンプラリー、共通ポイント制度・共通クーポン券発行等）
- ・観光事業者との連携による事業（ホテル宿泊者向けクーポン券の発行、修学旅行生向けのクーポン券の発行）

■遊休地、未活用地の活用

- ・工業試験場跡地の活用（フリーマーケットや朝市などの定期的開催、史跡めぐり・ウォーキングの拠点）
- ・地下通路の有効活用

■歴史文化を活用した事業の実施

- ・観光メニューの開発（史跡めぐりのウォーキング、自転車での名所・旧跡めぐり、鎧甲冑の装束や人力車の運行）
- ・西田、武地区の歴史マップの作成

## [6] 課題の整理

### 1. 第2期基本計画に向けた課題整理

#### ① 新幹線効果の中心市街地全体へのさらなる波及

鹿児島中央駅地区は、平成23年3月の九州新幹線全線開業と第1期基本計画に基づく市街地再開発事業等による都市機能の集積や公共交通機関の乗り換え利便性の向上、市電軌道敷緑化等による都市景観の向上などの事業の実施とがあいまって、駅周辺は交流人口が増えにぎわいを見せており、公示地価が上昇する地点も現れている。

一方、いづろ・天文館地区においても、歩行者通行量は下げ止まり、平成24年には計画期間内で最も高くなるなど、一定の効果があつたが、空き店舗率は9%台に上がり、公示地価も下落が続いている。また、上町・ウォーターフロント地区において空き店舗率は上昇している。

鹿児島中央駅地区に顕著に見られる新幹線効果を持続、拡大させ、中心市街地全体に波及させることが今後の課題である。

#### ② 鹿児島中央駅から上町・ウォーターフロント地区への回遊性の向上

本市の中心市街地には、鹿児島中央駅地区、いづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区の3つの大きな交流拠点が存在するが、これらの交流拠点の連携はまだ十分ではない。

第1期基本計画では、本市の歴史・文化を生かした各種観光施策が成果を挙げた。

第2期基本計画では、観光スポットともなっている西郷銅像のほか、市立美術館、県歴史資料センター黎明館など歴史・文化施設が集積し、年間130万人以上が訪れる歴史・文化ゾーンの魅力を中心市街地に取り込み、都市機能が向上した鹿児島中央駅地区、いづろ・天文館地区と、本市の個性ともいえる桜島、錦江湾の美しい眺望と親水性を楽しめる上町・ウォーターフロント地区それぞれの魅力をソフト・ハード両面から高めつつ、路面電車なども活用して連携を強化するなど、回遊性を向上させるための対策が必要である。

#### ③ 小売業をはじめ商業・サービス業機能のさらなる充実

中心市街地には、多様な社会基盤と都市福利施設等の既存ストックが集積している。第1期基本計画においては、既存ストックである三越鹿児島店閉店後の空きビルを活用して商業交流施設「マルヤガーデンズ」を整備したほか、都市計画駐車場であるセラ602と地下道で直接連結する文化商業複合施設であるL A Z O表参道（天文館シネマパラダイス）を整備するなど、民間活力による都市機能の集積を図ってきた。これらの取組により、中心市街地の歩行者通行量は下げ止まり、平成24年の実績値は計画期間内で最も高くなるなど、にぎわいが出てきたところであるが、小売業年間商品販売額は低迷している。

今後は、交流人口の増大をさらに中心市街地の活性化に生かしていくため、来街者ニーズを踏まえて、小売業をはじめ、飲食業、宿泊業、サービス業のさらなる充実を図っていく必要がある。

#### ④ 大規模空閑地、低未利用地の利活用

中心市街地は、多様な都市機能が集積し、住民や事業者にまとまった便益を提供できる地域の核であり、土地の高度利用に努める必要がある。

鹿児島駅周辺においては、住民等によるまちづくりガイドラインの策定や朝市・フリーマーケット事業等のソフト事業は実施されたが、具体的な整備事業には至らなかった。鹿児島駅周辺を含む上町・ウォーターフロント地区は、歴史・文化、美しい眺望など鹿児島ならではの魅力を多数内包する地区であることから、低未利用地となっている旧国鉄用地の土地利用を進めることにより、これらの地域資源を守り、育て、生かす必要がある。

また、中心市街地には、移転や閉店等によって発生した大規模空閑地や低未利用地が点在していることから、都市機能を高められるような活用を進めていく必要がある。

#### ⑤ 街なかの情報の共有化と発信機能の強化

いづろ・天文館地区の商店街や百貨店、企業等が団結し設立した“We Love天文館協議会”は、第1期基本計画に基づく様々なイベントや奉仕活動等を実施し、中心市街地の魅力向上と情報発信に努めてきた。

また、まちづくり会社として設立した“株式会社まちづくり鹿児島”は、いづろ・天文館地区の商店街から情報を集め、ホームページを通じて様々な情報発信を行うとともに、新設した観光交流センターや天まちサロンでは、来街者への案内機能を発揮し、きめ細かな情報提供を行ってきた。

しかし、これら街なかの情報は、相互の連携が薄く、情報が単発になりがちである。いつでも、どこでも情報が得られるように共有化することが必要である。

また、近年のライフスタイルの多様化やインターネット、スマートフォンの普及拡大等により、市民も観光客も多種多様なニーズを有し、必要とする情報を求めている。

今後、中心市街地にさらに多くの来街者を集め活性化を推進していくためには、インターネット等の情報通信技術を有効に活用し、多様なニーズに対応した情報の発信に努めていく必要がある。

#### ⑥ 国際化への対応

近年、韓国、台湾、中国、香港など東アジア地域から本市への旅行者については、経済発展や地理的に近いことから増加しており、今後さらに増加することが見込まれる。平成24年3月からは鹿児島と台湾を結ぶ空の便・台北線が就航したほか、鹿児島港には多くの外国船が寄港しており、第2期鹿児島市観光未来戦略では、外国人宿泊観光客数の目標値を平成28年度に16万人としている。

外国語の案内表示や通訳などまだ十分と言えない面もあるため、今後は、外国人観光客により長く滞在し、より満足してもらえるよう、きめ細かな受入体制づくりが重要である。

#### ⑦ 特色ある公共交通の活用

多様な公共交通機関が高密度に集中している特徴を生かしながら、バリアフリー化や停留所の改良等による利便性やアクセス性をさらに向上させる必要がある。

また、中心市街地にある桜島フェリーターミナルから出港する桜島フェリーを活用し、

新たに設定した航路を走るよりみちクルーズは平成23年度に18,000人を超える旅客を集め、南国鹿児島海の魅力を引き出している。平成24年3月に指定された霧島錦江湾国立公園内の景勝の地であることも追い風に、クルーズ船の楽しさをさらに活用していく必要がある。

#### ⑧ 都市型観光・滞在型観光の振興

アミュプラザ鹿児島や山形屋、マルヤガーデンズなどの大規模な商業施設が立地する中心市街地は、ショッピング、飲食、アミューズメント、文化施設等が集積し、都市型観光をこれまで以上に楽しめる街になっている。また、We Love天文館協議会や商店街等が協力して開催するイベントも多く、ライトアップによって彩り豊かな夜の景観演出も行われ、昼夜を問わずまち歩きが楽しめる魅力がある。

観光客が夜でも安心安全に楽しむことのできる環境の整備や、歴史・文化をはじめとする豊富な地域資源を楽しめる都市型観光・滞在型観光を推進し、交流人口のさらなる増大を図る必要がある。

#### ⑨ 環境に配慮した取組の推進

第1期基本計画では、市電軌道敷緑化や低公害車・低床型バスの導入、燃費の優れた新船フェリーの建造などに取り組み、環境負荷の低減に努めてきた。

今後も引き続き、環境にやさしい持続可能なまちづくりの一環として、低公害のバス導入等を進めるとともに、低未利用地の整備等を実施するにあたっては、市民が憩い、豊かさを感じることのできる“緑”を整備するなど、環境に配慮した取組を継続していく必要がある。

## [7] 中心市街地活性化の基本的な方針

### (1) 中心市街地のまちづくりの考え方

#### ①第五次鹿児島市総合計画、基本計画（前期：平成24年度～平成28年度）

#### 人が行き交う魅力とにぎわいあふれるまち【にぎわい交流政策】

##### 1. 地域特性を生かした観光・交流の推進

###### 1) 観光・コンベンションの振興

観光客のニーズを踏まえた効率的・効果的な情報発信により、本市への誘客を図るとともに、地域の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘致・受入体制のさらなる充実、イベントの振興や各種コンベンションの誘致などにより観光・コンベンションの振興を図ります。

###### 2) 国際交流の推進

市民、事業者、関係団体などの各主体と連携・協働しながら、成長著しい中国をはじめとするアジア諸国など多くの国々との経済面、観光面を含めた多彩な交流と誘客を進めるとともに、市民と在住外国人がお互いに認めあい、学びあう国際意識の高揚などを通じ、国際交流を推進します。

###### 3) グリーン・ツーリズムの推進

都市部住民の多様なニーズに応えるとともに、農村地域の活性化を図る方策の一つとして、農家の営みや豊かな自然、職、文化に触れ人々との交流を体験、体感できる取組の充実など、グリーン・ツーリズムを推進します。

##### 2. 中心市街地の活性化

###### 1) にぎわい創出と回遊性の向上

中心市街地の既存の社会資本を生かしたにぎわい創出拠点の整備や都市空間の有効活用を推進し、多様な公共施設や商業施設等の都市機能のさらなる充実を図ります。また、新たな魅力として、市民が憩える都市の杜（花緑拠点）の創出を図るとともに、特色ある公共交通を生かし、来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくりを推進します。

###### 2) 都市型観光の振興

本市固有の歴史や文化が育んだ中心市街地の個性を生かした都市型・滞在型観光を展開し、情報発信を行い、本市への誘客を図ることにより、多くの観光客が訪れる活気のあるまちづくりを推進します。

###### 3) 商業・業務機能の集積促進

広域から集客できる中心市街地の核となる商業・サービス業の機能充実を図るとともに、働く場として業務機能のさらなる集積を図り、快適で楽しく過ごせる多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくりを推進します。

##### 3. 地域産業の振興

###### 1) 商業・サービス業の活性化

事業革新や産業間の連携等を促進するとともに、経営基盤の強化及び人材の育成に努め、地域の特性やニーズに対応した商業・サービス業の活性化を図ります。

###### 2) 工業・地場産業の活性化

地域資源を生かしたものづくりや製品の高付加価値化への支援、国内外への販路拡大を図るとともに、新産業の創出や創業等への支援、企業立地の推進により、工業・地場産業の活性化を図ります。

###### 3) 貿易・流通の振興

貿易・流通関連基盤の機能強化や整備促進を図るほか、企業の海外取引に対する支援や情報提供の充実等により貿易・流通の振興に努めます。

###### 4) 雇用環境の充実

企業立地の推進や創業支援等を通じて、就業機会の拡大に努めるとともに、若者や高齢者、障害者等の雇用促進や勤労者の福祉の増進を図るなど雇用環境の充実に努めます。

## ②かごしま都市マスタープラン（平成13年～平成33年）

### 1. 都市計画の目指す将来像

**21世紀・地球時代に輝きを放つ交流拠点都市**  
～みんなで、ふれあい、かよい、はぐくむまち・かごしまをめざして～

### 2. 都市づくりの基本理念

- かごしまの魅力を再発見し、活かす都市づくり
- 市民とともに手を携えてつくる都市づくり

### 3. 土地利用・市街地整備の方針

#### ○中心商業業務ゾーン

- ・鹿児島中央駅周辺地区においては、鹿児島中央駅総合交通ターミナルと一体となった南部地区や西口周辺の再開発を促進します。
- ・いづろ・天文館地区においては、バリアフリーに配慮した歩道整備、カラー舗装、電線類の地中化、ポケットパーク・コーナー広場の設置、商店街アーケードの整備促進など、かごしまの顔、広域交流拠点として、歩いて楽しくにぎわいに満ちた鹿児島らしい交流空間を形成します。
- ・いづろ・天文館地区の都心商業拠点エリアにおいては、容積率の見直しや特例容積率適用地区制度の活用など土地の高度利用による商業業務施設の集積を促進します。
- ・都心居住を回復するため、総合設計制度や中高層階住居専用地区など特別用途地区の活用を図ります。
- ・中央町23番街区市街地再開発事業など商業施設と都市型住宅の複合した再開発を促進します。
- ・名山地区など木造建築物の密集地においては、生活のたたずまいや横丁の雰囲気を残しつつ、市街地再開発事業や建築物の更新・共同化の誘導により都市型住宅の整備を促進します。
- ・少子・高齢社会に対応した社会福祉施設等と一体となった住宅の整備について検討します。
- ・鹿児島駅周辺地区においては、かごしま発祥の地としての歴史性や眼前の桜島、錦江湾の景観を活かし、旧国鉄用地等を活用した鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業や鉄道の高架化により、陸の北の玄関口・海の玄関口としての交通機能の強化とにぎわいのある新たな都市拠点を形成します。
- ・易居町など木造建築物の密集地においては、港町としての雰囲気を残しつつ、地域の利便性を活かした市街地再開発事業や優良建築物等整備事業などにより都市型住宅への建替えを促進します。

#### ○広域交流・業務ゾーン

- ・本港区においては、鹿児島港本港区ウォーターフロント開発基本計画の促進等による、雄大な桜島や市街地中心部に隣接した立地性を活かした商業・業務施設の立地誘導、人と海がふれあえる公園・広場の整備、多彩なイベントの開催等により、活気ある交流空間を形成します。
- ・市役所周辺地区においては、県民交流センターや、消防庁舎・市民福祉プラザ、歴史・文化ゾーンなど人の集まる資源を生かし、にぎわいのある広域交流・業務ゾーンを形成します。
- ・城山周辺地区、祇園之洲、磯・多賀山地区においては、地区計画等を活用し良好な都市景観を保全します。

### ③鹿児島市商工業振興プラン（平成23年度～平成33年度）

#### 1. 本市商工業の将来像

**多彩な人と 豊かな資源で 織りなす  
にぎわい活力都市・かごしま**

本市商工業が将来に向けて、持続的に発展していくため、多様な業種の様々な能力・技術を有する「多彩な人」が、農林水産物、自然風土、歴史・文化、伝統技術などの「豊かな資源」を最大限に生かし、多様な主体との連携・協働等により、新たな魅力・価値を「織りなす」ことで、南九州の中核都市として、「にぎわいと活力」あふれるかごしまの創造を目指します。

#### 2. 商工業振興の方向性

##### ■商工業振興の方向性 1

##### かごしまの地域資源・特性を生かした産業の活性化

豊かな農林水産資源等の「素材」を生かして本市商工業の競争力を高めるとともに、地域資源やアジアとの近接性などの特性を生かして、国内外との「交流」、「観光」の促進を通じた産業の活性化やアジアを中心とした海外との取引強化に取り組めます。

##### ■商工業振興の方向性 2

##### かごしまの将来を牽引する新たな産業の創出

食品加工に関する技術の蓄積や集積する学術・研究機関等の存在、国の新成長戦略などを踏まえ、産官学の多様な連携・協働を促進しながら、「環境」、「健康」などの成長分野に関連する新産業の創出に取り組めます。

##### ■商工業振興の方向性 3

##### かごしまを支える産業の成長促進

社会経済情勢の変化による消費動向の変化やニーズの多様化に対応し、本市商工業の中核をなす商業・サービス業の活性化を図るとともに、伝統産業の事業革新等による活性化や都市機能の集積などのポテンシャルを生かした産業の振興に取り組めます。

##### ■商工業振興の方向性 4

##### かごしまの将来を担う企業・人材の育成

事業者が抱える課題の解決を図り、刻々と変化する社会経済情勢に対応するため、関係機関のネットワークを強化して、企業経営の安定と革新を支援するとともに、新たなチャレンジへの支援と人材の育成・確保に取り組めます。

#### ④第2期鹿児島市観光未来戦略（平成24年度～平成28年度）

##### 1. 基本目標

###### ■基本コンセプト

### 出会いと発見・感動あふれる観光交流都市“かごしま”

市民、事業者、行政などが一体となって

- 観光客が、歴史や自然、食など、本市の魅力ある資源との“出会い”や、ホスピタリティあふれる市民との“出会い”を楽しんでいただける“観光交流都市”を目指します
- 観光客の多彩なニーズに対応することで、観光客が新たな楽しみを“発見”し、“感動”と満足感に満たされる“観光交流都市”を目指します。

##### 2. 基本戦略

【基本戦略1】「鹿児島」オリジナルの魅力の向上  
～感動・体験・回遊できるまちづくり～

###### ■取り組むにあたっての視点

- 視点① 観光資源・イベントの磨き上げと充実
- 視点② 回遊性を高める仕掛けづくり
- 視点③ 新しい観光のスタイルへの対応

【基本戦略2】「鹿児島」ならではの情報の発信  
～効果的な情報戦略の展開～

###### ■取り組むにあたっての視点

- 視点① ニーズの的確な把握
- 視点② 効果的なプロモーションと情報発信機能の強化
- 視点③ 人的ネットワークの積極的な活用

【基本戦略3】おもてなし先進都市「鹿児島」づくり  
～観光客に優しい受入体制づくり～

###### ■取り組むにあたっての視点

- 視点① 市民が誇れるまちづくり
- 視点② 官民一体となった「おもてなし」の向上
- 視点③ 安心・快適に観光できる体制づくり

【基本戦略4】南九州及びアジアのゲートウェイ「鹿児島」づくり  
～ハブ機能を活かした集客拡大～

###### ■取り組むにあたっての視点

- 視点① 東アジアをメインターゲットとした誘致
- 視点② 外国人観光客目線に立った受入体制の充実
- 視点③ ハブ機能とネットワークの強化・拡大

## (2) 中心市街地活性化の基本的な方針

中心市街地は、様々な高次都市機能が集積し交通結節点としての高い利便性を有する本市のまちの顔として、また南九州随一の繁華街天文館をはじめとする広域商業地区として、本市経済の発展に重要な役割を果たしてきたが、近年の消費者ニーズの多様化や大型商業施設の中心市街地外への相次ぐ出店等により、相対的な地位の低下が懸念されている。

九州新幹線全線開業を見据えた第1期基本計画の着実な推進により、歩行者通行量や入込観光客の指標において一定の成果が表れ、また、居住人口の増加による活性化効果も加わり、中心市街地ににぎわいが出てきている。

今後は、第1期基本計画における中心市街地活性化の基本的な方針を踏襲しつつ、新幹線効果を持続・拡大させ、交流人口のさらなる増大を図るため、都市型・滞在型観光などの推進や路面電車などを活用した回遊性の向上、商業・サービス機能の新たな集客拠点の創出を図るとともに、増加傾向が続いている居住人口をまちの活性化にさらに結び付けていくなど、観光・商業・交流によるにぎわいあふれる中心市街地のまちづくりを、市民、事業者、行政等が一体となって推進していかなければならない。

こうした状況を踏まえ、中長期的視点のもとで、中心市街地活性化の着実な推進と実現のために各種施策事業を重点的かつ効果的に展開することとし、次のとおりコンセプトと3つの基本方針を設定する。

### ① コンセプト

**「観光・商業・交流による にぎわいあふれるまちづくりの推進」**

### ② 基本方針

#### **基本方針1： 気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり**

人々が安心してまちを訪れ、快適に、かつ楽しく時間を過ごせるような、にぎわいとやすらぎのある都市空間を整備し、中心市街地がこれまで培ってきたまちの多様性や海と陸の玄関としての交通結節機能を生かして、市民・県民はもとより、観光客等を含むすべての来街者が、気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくりを推進する。

#### **基本方針2： 人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり**

中心市街地として、住民や来街者のニーズを満たす多様な都市施設の整備、民間や行政の各分野におけるサービスの充実により、街なかの利便性・快適性を生かした高齢者を含む多くの人々が暮らしやすいまちづくりを推進するとともに、本市固有の歴史や文化が育んだ中心市街地の個性と特色を生かした都市型観光、着地型観光を展開し、国内外から多くの観光客が訪れる活気のあるまちづくりを推進する。

#### **基本方針3： 多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり**

広域から集客できる中心市街地の核となる商業機能の充実と受入体制の強化、おもてなしの心の醸成を図るとともに、街なかに出かける楽しさを演出することにより、長時間滞在したくなる多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくりを推進する。